

Kansai University
Library Forum

関西大学

図書館フォーラム

2021

第26号



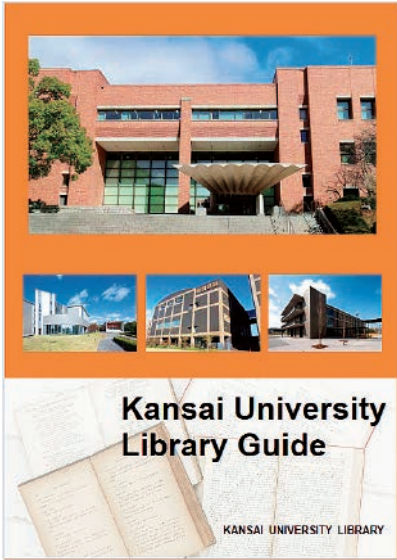
Kansai University
Library Forum

関西大学

図書館フォーラム

2021

第26号



新たに発行した英語版利用案内



新AVコーナー



春学期展示「科学道100冊」

秋学期展示「SDGs」



館内における新型コロナウイルス対策



エントランスには消毒薬を設置
マスク着用や咳エチケットの注意喚起も



全面利用停止となった
ラーニング・commons



グループ閲覧室も利用停止に



利用者と対面するカウンターにはスクリーンを設置



タイルカーペットに貼付した
ソーシャルディスタンスシール



密を避けるため閲覧用椅子を間引き、移動を禁止した

図書館フォーラム Library Forum

第26号 2021 目次

口絵 図書館サ・エ・ラ（2020 図書館記録写真）
館内における新型コロナウイルス対策

巻頭感

2021 年度年頭にあたって 安 武 真 隆 1

虫ぼし抄

関西大学所蔵『田豆の毛衣』抄 関西大学図書館 手紙を読む会 一

〈図書館自己点検・評価について〉 図書館自己点検・評価委員会 5

図書館談話室

令和2年度図書館等職員著作権実務講習会に参加して 田 中 舞 衣 26

図書館活動報告

2020 年度図書館活動報告 29

コロナ禍における図書館利用サービスについて 新 谷 大 二 郎 32

コロナ禍のもとで図書館の事務管理職として何を考えていたか 濱 生 快 彦 36

図書館出版物案内 39

『関西大学図書館フォーラム』投稿要項 40

編集後記

巻頭感 2021 年度年頭にあって

図書館長 安 武 真 隆

全く予期していなかったことではあったが、前田裕新学長の要請に基づき、2020 年 10 月から図書館長に就任することとなった。これまで内田慶市図書館長（2012-2016 年）、新井泰彦図書館長（2016-2020 年）の下で、図書予算の専門部会の一委員として図書館が抱える問題に幾らか接してはいたが、図書館運営について特に通じているわけではなかった。また一匹狼的な性格が災いしてか組織の長になる経験も皆無であったこともあり、マキアヴェッリの新君主のように、「一私人の身から、ただ運に恵まれて君主になった者は、国を維持するにあたって非常な困難に直面する」を地で行く心境でのスタートとなった。

就任してからは、これまでとは異なった角度から図書館を眺めることとなった。そこで目にしたのは、図書館運営を陰で支える図書館の事務職員の姿である。窓口対応の職員の他にも、バックヤードと呼ばれる場所も含め、総勢 130 名（2021 年 4 月現在）の職員が、図書等資料の選定、購入、整理、配架、加除、情報提供といった作業に従事されている。時には各種展示なども企画し学生への啓発活動も行っているが、地味な裏方の作業も多い。昨今の大学の置かれた状況を反映し、ヒト・カネ・場所の制約が厳しい中、縁の下の力持ちとして彼女・彼ら（いわゆる非正規の職員も少なくない）の日々の創意工夫が、関西大学の研究教育の心臓とも言うべき図書館運営を支えているのである。限られた人員・予算ゆえに、貴重資料の中には未整理のままのものも多数存在するという。委託業務領域の拡大に伴い、図書館業務に関するノウハウや暗黙知の継承・蓄積も課題となっていると聞く。これまで一教員として図書館運営に要望を出すことはあっても、他の教員・学生からの声に耳を傾け、限られた資源の中でそれに応えるべくやり繰りした経験はなかった。かつてアリストテレスは、「善き市民は、支配されることと支配することの双方の知識を持ち、かつその能力があるのでなければならない」と主張したが、大学図書館に関わる一研究者として、似たような感慨を抱いた。

先述した専門部会では、昨今の大学図書館が直面している問題のうち、電子ジャーナルの価格高騰が図書館予算を圧迫し、雑誌の購入タイトルの削減につながる事態に向き合った。当時の専門部会では、図書予算の増額を前提とせず、限られた時間と資源の中で、購入停止となる資料の選定が恣意的にならぬよう、一般ルールを定め全学的な合意調達を目指した。とはいえ、かかるルールに基づいた削減計画によって、実際に研究教育の遂行に支障を来たさない保証はなかった。図書館長に就任後、電子ジャーナルやデータベースの購入停止に伴う研究教育上の不都合が浮き彫りとなり、早くも、この削減計画の妥当性が問われることとなった。改めて、削減計画の

前提条件でもあった、図書予算の増額無し（ゼロ・シーリング）を見直す必要性を痛感させられる事態となったのである。幸い大学執行部の理解もあり、2021年度については、授業運営に支障をきたすことが懸念される図書資料に限定しての臨時購入が可能となったが、研究教育に必須の図書資料の中長期的な安定的維持確保のためには、新たな財源を捻出しなければならないし、購入停止となった図書資料について最低限度のアクセスを保証するために、受益者負担の原則の一部導入を視野に入れつつも相互利用の拡充など総合的なセーフティネットの構築のための全学的な合意形成も喫緊の課題であろう。

図書館が直面する課題は、かかる図書予算の問題だけではない。大学図書館も社会の中に位置付けられる以上、社会の大きな変化に合わせた対応も求められる。事務職員と何度も意見交換をする中で、関西大学図書館の事務体制の将来構想として、1) あらゆる面でオンライン化を推進する、2) 事実と要求に基づくサービスを志向する、3) ダイバーシティへの対応を推進する、以上の三つの考え方を当面の基礎に据えて、取り組む必要があると認識するに至った。以下ではかかる三つの考え方について図書館長としての現時点での認識を披露することとしたい。

1) あらゆる面でオンライン化を推進する

既に館長就任に際して、図書館機能の強化に関連し、デジタル化の推進、オープンサイエンス、オープンアクセスといったキーワードを念頭において検討することを表明した。図書館が所蔵している書籍情報や各教員の研究成果のデジタル化を通じて、広く容易に社会からアクセス・利用できるという方向性を念頭に置いてのことである。もちろん、研究分野の多様性を踏まえ、画一的な管理統制は避け、補完性の原則に基づく必要はある。とはいえ、古典的な図書館機能を維持・拡充すると同時に、大学そのものをビッグデータの塊と理解し、総合的な知的プラットフォームとして図書館機能の更新を図る必要はあろう。既にデジタル化の前提となる基本方針について大学としてコンセンサス作りが進行中である。

かかる動きと軌を一にして、関西大学図書館の事務体制においてもオンライン化を一層展開していく必要があるだろう。Covid-19の感染拡大もあり、紙による申請や対面によるサービスに代えて、来館の有無を問わず各種サービスにオンラインを通じてアクセスできる環境の拡充が求められる。業務を支えるシステムのクラウド化の推進も求められるであろう。

2) 事実と要求に基づくサービスを志向する

社会の大きな変化に対応してサービス内容を不断に更新していくにあたり、図書委員や事務職員との自由闊達な議論は不可欠であるが、と同時に何らかの客観的な事実やデータに基づく必要もあろう。先述の削減計画に伴う研究教育上の不都合に関連して、昨秋に行った実態調査を契機に、教育に必要なデータベースの同時アクセス数不足が判明し、アクセス拒否の頻度などを勘案した適正なアクセス数の試算を行うことができた。したがって今後も、自己点検・評価に関す

る統計の取りまとめにとどまらず、資源の許す限り、より多くの統計資料や実態調査と分析を、図書館事務における業務に組み込んでいく必要がある。

3) ダイバーシティへの対応を推進する

専門部会において電子ジャーナルの高騰への対処として図書資料の優先順位を定めた際、教員の単純多数決ではなく各学部単位での推薦を募るなど、学問分野の多様性を維持すべく苦心した。大学図書館における多様性の維持は、かかる研究教育の内容に留まらず、事務体制においても検討されるべきであろう。特に、多様な属性を持つ利用者を念頭に置いたユニバーサル・デザインの推進は、KANDAI vision 150における「多様性」への対応や、外国人留学生の増加を目指した構想とも連動する。施設面で外国語表記の増設や、施設設備のバリアフリー化、SDGsに関わる啓発活動の継続などが当面の課題となろう。

とはいえ、大学図書館におけるダイバーシティを検討する際の基本姿勢としては、単に「多様性」概念を提唱するだけでは不十分かもしれない。この点で、削減計画に基づいて購入停止となる図書資料の選定の過程が示唆を与えるようにも思う。選定作業は、様々な外部要因が作用したため、年度末まで定まらず、どの専門分野にとっても生命線とも言える図書資料が失われる恐れがあった。削減計画において、実際に齎寄せが来るのは最終的には一部の教員かもしれないが、それが誰にとっても他人事ではなく、誰もが被害者になりうる、という状況だったのである。かかる入れ替え可能な状況は、多数者の地位に安住することなく、誰もがマイノリティであるという視点から、ダイバーシティの問題を全員の問題として検討する契機となったようにも思われる。

以上、思いつくままに関西大学図書館が直面する課題を挙げたが、これらの課題に取り組み、図書館機能を強化・拡充していくためには、従来から行われてきた図書館業務を遂行する人材を維持・拡充させると同時に、将来構想を実現するのに必要な人材の配置・育成や、情報収集・分析、運営意思決定のための人材の充実も不可欠であろう。現在の図書館運営を支えている事務職員の労働強化とならないよう細心の注意を払いつつ、研究教育機関としての関西大学の心臓として、それを将来に向けてどう機能強化していくか、そのための基盤強化のために何が必要か、大学全体の集合知を結集しつつ、引き続き模索を続けていく所存である。

(やすたけ まさたか 政策創造学部教授)

図書館自己点検・評価について

2020年度

□ 目 次 □

自己点検・評価関係資料

- 1 基礎データ（2020年度）…………… (1)
- 2 2020年度図書館自己点検・評価委員会名簿…………… (19)
- 3 図書館自己点検・評価委員会規程…………… (20)

自己点検・評価関係資料

1 基礎データ（2020年度）

<p>(1) 入館者に関する統計</p> <p>a 過去5年間の館別・月別開館日数</p> <p>b 館別・所属別入館者数および1人当たり平均入館回数</p> <p>c 館別・月別・資格別入館者数および1日当たり平均入館回数</p> <p>d 時期別・時間帯別総入館者数および1日当たり平均入館者数（総合図書館）</p> <p>e 過去5年間の地域市民の図書館利用申請者数（総合図書館・ミューズ大学図書館・堺キャンパス図書館）</p> <p>(2) 図書資料の利用に関する統計</p> <p>a 館別・月別図書利用者数および利用冊数</p> <p>b 月別入庫検索者数（総合図書館）</p> <p>c-1 グループ閲覧室の利用状況（総合図書館）</p> <p>c-2 グループ閲覧室の利用目的（総合図書館）</p> <p>c-3 ラーニング・コモンズの利用状況（総合図書館）</p> <p>c-4 ラーニング・コモンズの利用目的（総合図書館）</p> <p>d-1 Webによるサービスの利用状況</p> <p>d-2 Web機能の使用状況</p> <p>e 文献複写サービス</p> <p>f 図書館間相互利用件数</p> <p>g 参考業務（総合図書館）</p> <p>h 利用指導</p> <p>i 学内で閲覧利用できる電子ジャーナル</p> <p>j 過去5年間の文献・情報データベース検索回数</p> <p>k リポジトリ登録件数・アクセス数・ダウンロード数</p> <p>l 閲覧・ダウンロード件数</p> <p>m キャンパス間相互利用件数（予約取寄せ）</p> <p>n 利用者用パソコン設置台数</p> <p>(3) 蔵書に関する統計</p> <p>① 収書状況</p> <p>a 図書資料の所蔵数（2020年度末現在）</p> <p>b 過去5年間の図書の受入数</p> <p>c 図書資料異動状況</p> <p>d 雑誌・新聞受入種類数</p> <p>② 分類別所蔵図書冊数（日本十進分類法による）</p> <p>③ 分類別所蔵雑誌種類数（日本十進分類法による）</p> <p>④ 分類別冊数と分類別冊数の全体に占める割合</p> <p>a 分類別冊数</p> <p>b 分類別冊数の全体に占める割合</p> <p>⑤ 図書館資料費執行額5年間の推移</p> <p>⑥ 電子資料に係る経費の推移</p> <p>(4) その他関連統計等</p> <p>① 過去5年間の図書館職員</p> <p>② 学生の閲覧座席数（2021年4月1日現在）</p> <p>③ 10年間の展示会テーマと会期</p> <p>④ 資料の出陳・放映（学外からの依頼分）</p> <p>※新型コロナウイルスの感染症拡大の影響により開館日・開館時間帯が大幅に減少したため、利用者数、貸出冊数とも例年より減少した。</p> <p>※緊急事態宣言発出に伴う休館 4月11日～6月14日</p>
--

(1) 入館者に関する統計

a 過去5年間の館別・月別開館日数

館	月	年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総合図書館	2016年度	30 (4)	31 (8)	29 (3)	31 (5)	16 (0)	25 (2)	31 (5)	26 (5)	24 (4)	24 (5)	16 (0)	21 (0)	304 (41)	
	2017年度	30 (4)	31 (7)	30 (4)	31 (5)	17 (0)	26 (1)	31 (6)	26 (4)	25 (5)	26 (5)	16 (0)	22 (0)	311 (41)	
	2018年度	30 (5)	31 (7)	28 (4)	29 (5)	19 (0)	24 (1)	31 (5)	26 (4)	25 (4)	25 (4)	16 (0)	20 (0)	304 (39)	
	2019年度	30 (6)	31 (8)	29 (4)	31 (4)	19 (0)	26 (2)	30 (6)	26 (3)	24 (4)	26 (4)	16 (0)	18 (0)	306 (41)	
	2020年度	9 (0)	— (—)	14 (0)	25 (0)	16 (0)	27 (1)	31 (4)	29 (6)	26 (3)	24 (4)	16 (0)	23 (0)	240 (18)	

高槻 キャンパス 図書館	2016年度	26	23	26	26	16	20	26	22	20	20	22	22	269
	2017年度	25	24	26	26	15	22	25	23	20	20	22	22	270
	2018年度	24	24	23	24	17	20	26	24	21	21	22	21	267
	2019年度	24	23	25	27	15	22	24	25	20	22	21	20	268
	2020年度	9	—	12	21	12	23	27	23	23	20	21	23	214
ミュージズ 大学図書館	2016年度	26	23	26	26	10	16	26	22	20	20	22	22	259
	2017年度	25	24	26	26	15	22	25	23	20	20	22	22	270
	2018年度	24	24	23	24	17	20	26	24	21	21	22	21	267
	2019年度	24	23	25	27	15	22	24	25	20	22	21	20	268
	2020年度	9	—	12	21	12	23	27	23	23	20	21	23	214
堺キャンパス 図書館	2016年度	26	23	26	26	16	20	26	22	20	20	22	22	269
	2017年度	25	24	26	26	15	22	25	23	20	20	22	22	270
	2018年度	24	24	24	24	17	20	26	24	21	21	22	21	268
	2019年度	24	23	25	27	15	22	24	25	20	22	21	20	268
	2020年度	9	—	12	21	12	23	27	23	23	20	21	23	214

注1 総合図書館の下段()は内数で、授業期間中の日曜・祝日開館日数を示す。高槻・ミュージズ・堺の各図書館は日曜・祝日は休館。

注2 夏季一斉休業期間中の休館 8月11日～8月20日

注3 冬季一斉休業期間中の休館 12月27日～1月6日

注4 入学試験等による休館 2月1日～2月7日

注5 年度末休館 3月29日～3月31日

注6 緊急事態宣言発出に伴う休館 4月11日～6月14日

b 館別・所属別入館者数および1人当たり平均入館回数

所属		館	総合図書館	高槻キャンパス図書館	ミュージズ大学図書館	堺キャンパス図書館
学部 学生	法学部	入館者数	31,734	10	117	320
		平均入館回数	10.2	0.0	0.0	0.1
	文学部	入館者数	37,031	1	115	131
		平均入館回数	11.3	0.0	0.0	0.0
	経済学部	入館者数	21,489	1	86	75
		平均入館回数	6.6	0.0	0.0	0.0
	商学部	入館者数	18,111	4	49	82
		平均入館回数	5.6	0.0	0.0	0.0
	社会学部	入館者数	19,112	4	108	51
		平均入館回数	5.6	0.0	0.0	0.0
	政策創造学部	入館者数	11,441	1	59	5
		平均入館回数	7.4	0.0	0.0	0.0
	外国語学部	入館者数	3,899	0	30	32
		平均入館回数	5.5	0.0	0.0	0.0
	人間健康学部	入館者数	1,526	0	14	11,156
		平均入館回数	1.1	0.0	0.0	7.9
	総合情報学部	入館者数	762	7,095	740	24
		平均入館回数	0.4	3.3	0.3	0.0
	社会安全学部	入館者数	809	6	4,934	11
		平均入館回数	0.7	0.0	4.1	0.0
システム理工学部	入館者数	15,424	2	79	9	
	平均入館回数	7.0	0.0	0.0	0.0	
環境都市工学部	入館者数	8,414	0	16	4	
	平均入館回数	6.1	0.0	0.0	0.0	
化学生命工学部	入館者数	10,897	0	13	1	
	平均入館回数	7.4	0.0	0.0	0.0	
学部合計		入館者数	180,649	7,124	6,360	11,901
		平均入館回数	6.4	0.3	0.2	0.4
大学院学生		入館者数	16,030	322	529	203
		平均入館回数	9.7	0.2	0.3	0.1
専任 教職員	大学教員	入館者数	3,421	180	191	152
		平均入館回数	4.6	0.2	0.3	0.2
	高中小幼教諭	入館者数	24	0	80	0
		平均入館回数	0.1	0.0	0.4	0.0
	事務職員	入館者数	865	144	84	20
		平均入館回数	1.8	0.3	0.2	0.0

上記を除く教職員	入館者数	5,077	89	196	139
校 友	入館者数	6,818	24	3,370	344
そ の 他	入館者数	9,448	333	4,370	341
合 計	入館者数	222,332	8,216	15,180	13,100

注1 平均入館回数は、入館者数を利用対象者数（2020年5月1日現在）で除した1人当たりの数値である。

注2 「その他」は地域市民、科目等履修生、聴講生、留学生別科、協定大学の専任教員・大学院学生、他機関からの利用者。

c 館別・月別・資格別入館者数および1日当たり平均入館回数

月	総 合 図 書 館							
	学部学生	大学院学生	教職員	校 友	その他	合 計	日平均 月～土曜日	日平均 日曜・祝日
4	2,442	542	387	201	361	3,933	437.0	—
5	—	—	—	—	—	—	—	—
6	3,829	649	363	329	589	5,759	411.4	—
7	9,581	1,381	763	783	870	13,378	535.1	—
8	3,596	708	486	567	572	5,929	370.6	—
9	18,324	1,857	1,149	819	1,023	23,172	882.7	222.0
10	37,460	2,812	1,463	841	1,296	43,872	1,588.1	248.5
11	32,472	2,150	1,169	783	1,146	37,720	1,561.7	300.3
12	31,800	2,262	1,181	708	1,017	36,968	1,565.7	319.3
1	29,448	1,731	956	635	974	33,744	1,571.8	577.0
2	5,785	903	603	458	688	8,437	527.3	—
3	5,912	1,035	867	694	912	9,420	409.6	—
合 計	180,649	16,030	9,387	6,818	9,448	222,332	973.2	349.1
月	高 槻 キ ャ ン パ ス 図 書 館							
	学部学生	大学院学生	教職員	校 友	その他	合 計	日平均 月～土曜日	日平均 日曜・祝日
4	51	24	20	1	10	106	11.8	—
5	—	—	—	—	—	—	—	—
6	12	19	20	1	17	69	5.8	—
7	68	31	42	1	38	180	8.6	—
8	25	19	20	—	19	83	6.9	—
9	1,090	42	49	—	37	1,218	53.0	—
10	2,212	62	63	3	42	2,382	88.2	—
11	1,405	34	53	1	33	1,526	66.3	—
12	1,290	32	50	1	44	1,417	61.6	—
1	856	32	43	—	30	961	48.1	—
2	64	14	29	14	30	151	7.2	—
3	51	13	24	2	33	123	5.3	—
合 計	7,124	322	413	24	333	8,216	38.4	—
月	ミ ュ ー ズ 大 学 図 書 館							
	学部学生	大学院学生	教職員	校 友	その他	合 計	日平均 月～土曜日	日平均 日曜・祝日
4	112	39	23	140	212	526	58.4	—
5	—	—	—	—	—	—	—	—
6	219	24	42	72	105	462	38.5	—
7	480	85	47	368	499	1,479	70.4	—
8	153	32	41	233	374	833	69.4	—
9	538	63	57	393	485	1,536	66.8	—
10	1,082	85	73	443	494	2,177	80.6	—
11	980	57	80	412	452	1,981	86.1	—
12	1,033	93	67	411	399	2,003	87.1	—
1	1,124	22	52	334	409	1,941	97.1	—
2	419	17	38	299	437	1,210	57.6	—
3	220	12	31	265	504	1,032	44.9	—
合 計	6,360	529	551	3,370	4,370	15,180	70.9	—

月	堺キャンパス図書館							
	学部学生	大学院学生	教職員	校 友	その他	合 計	日平均 月～土曜日	日平均 日曜・祝日
4	93	5	16	13	24	151	16.8	—
5	—	—	—	—	—	—	—	—
6	124	7	12	17	27	187	15.6	—
7	452	23	22	30	56	583	27.8	—
8	139	13	11	13	14	190	15.8	—
9	954	15	25	28	29	1,051	45.7	—
10	2,556	27	58	68	32	2,741	101.5	—
11	2,167	23	36	58	40	2,324	101.0	—
12	2,462	51	55	56	25	2,649	115.2	—
1	2,319	22	39	23	36	2,439	110.9	—
2	308	13	16	14	33	384	18.3	—
3	327	4	19	24	27	401	17.4	—
合 計	11,901	203	309	344	343	13,100	61.2	—

注1 「その他」は地域市民、科目等履修生、聴講生、留学生別科、協定大学の専任教員・大学院学生、他機関からの利用者。

注2 緊急事態宣言発出に伴う休館 4月11日～6月14日

d 時期別・時間帯別総入館者数および1日当たり平均入館者数（総合図書館）

区 分	時間帯	9～10	10～11	11～12	12～13	13～14	14～15	15～16	16～17	17～18	18～19	19～20	20～21	21～22	合 計		
春 学 期	授業期間	総入館者	1,744	1,862	1,919	2,642	3,395	3,323	2,905	2,820	2,073	1,282	517			24,482	
		1日平均	34.2	36.5	37.6	51.8	66.6	65.2	57.0	55.3	40.6	25.1	10.1			480.0	
	試験期間	総入館者															
		1日平均															
	休暇期間	総入館者		1,400	1,069	1,334	1,616	1,614	1,170	1,117	735	355	142			10,552	
		1日平均		46.7	35.6	44.5	53.9	53.8	39.0	37.2	24.5	11.8	4.7			351.7	
	小 計	総入館者	1,744	3,262	2,988	3,976	5,011	4,937	4,075	3,937	2,808	1,637	659			35,034	
		1日平均	21.5	40.3	36.9	49.1	61.9	61.0	50.3	48.6	34.7	20.2	8.1			432.5	
	秋 学 期	授業期間	総入館者	6,840	15,465	10,361	25,724	15,803	23,964	11,291	17,073	8,616	4,643	1,493			141,273
			1日平均	77.7	175.7	117.7	292.3	179.6	272.3	128.3	194.0	97.9	52.8	17.0			1605.4
		試験期間	総入館者	1,414	1,924	1,987	3,156	2,808	3,375	2,296	2,254	1,574	805	291			21,884
			1日平均	101.0	137.4	141.9	225.4	200.6	241.1	164.0	161.0	112.4	57.5	20.8			1563.1
休暇期間		総入館者		2,319	1,583	2,077	2,625	2,506	2,357	2,125	1,331	684	250			17,857	
		1日平均		56.6	38.6	50.7	64.0	61.1	57.5	51.8	32.5	16.7	6.1			435.5	
小 計		総入館者	8,254	19,708	13,931	30,957	21,236	29,845	15,944	21,452	11,521	6,132	2,034			181,014	
		1日平均	57.7	137.8	97.4	216.5	148.5	208.7	111.5	150.0	80.6	42.9	14.2			1265.8	
日祝開館		総入館者		870	599	826	1,210	1,042	834	608	295					6,284	
		1日平均		48.3	33.3	45.9	67.2	57.9	46.3	33.8	16.4					349.1	
年度合計		総入館者	9,998	23,840	17,518	35,759	27,457	35,824	20,853	25,997	14,624	7,769	2,693			222,332	
		1日平均	41.3	98.5	72.4	147.8	113.5	148.0	86.2	107.4	60.4	32.1	11.1			918.7	

注1 春学期 授業期間：4月6日～8月3日、定期試験の実施がなかったため、試験期間の設定なし

休暇期間：4月1日～4月5日、8月4日～9月20日

秋学期 授業期間：9月21日～12月26日・1月7日～1月14日、試験期間：1月15日～1月30日

休暇期間：12月27日～1月6日・1月31日～3月31日

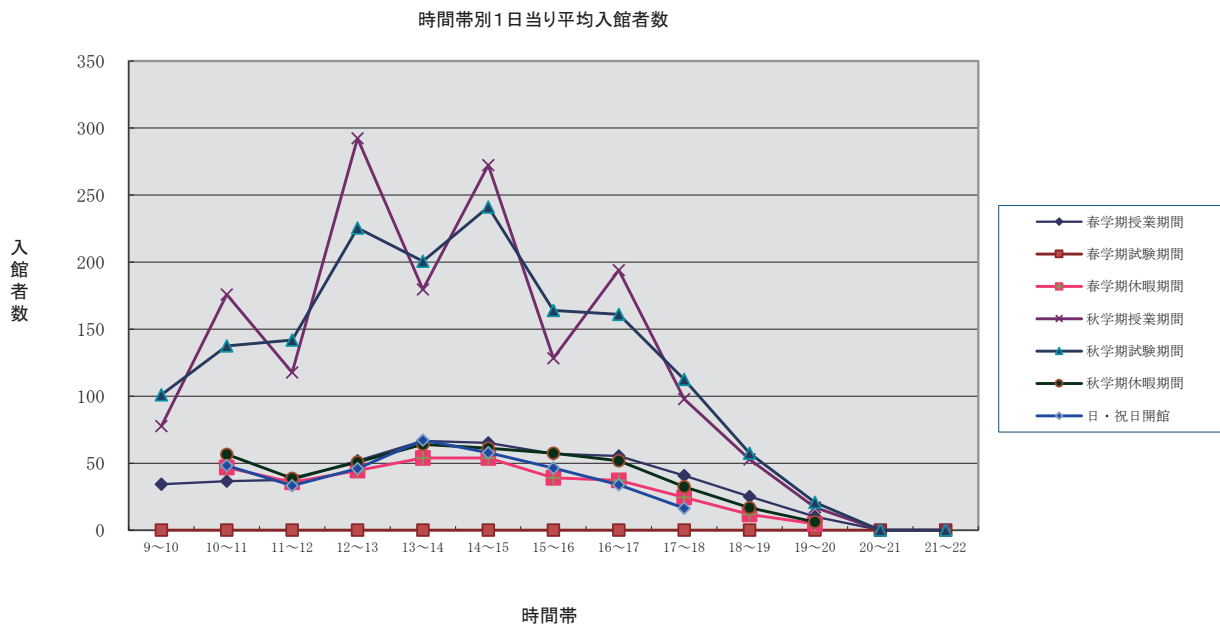
注2 授業期間とは、学年暦による授業期間（補講日含む）を示す。

注3 各期間の入館者数には、日祝開館に係る数値を含まない。

注4 試験期間とは、図書資料の貸出期間を3日間に短縮した日から試験終了日（予備日含む）までを示す。

注5 年間を通して開館時間を短縮した。

(5)



e 過去5年間の地域市民の図書館利用申請者数（総合図書館・ミューズ大学図書館・堺キャンパス図書館）

総合図書館	新規	再登録	合計	対象
2016年度	45	101	146	吹田市・池田市・八尾市の在住者
2017年度	49	101	150	吹田市・池田市・八尾市の在住者
2018年度	37	120	157	吹田市・池田市・八尾市の在住者
2019年度	24	116	140	吹田市・池田市・八尾市の在住者
2020年度	47	103	150	吹田市・池田市・八尾市の在住者

注1 2020年度の登録者数の内訳は、吹田市146名、池田市4名、八尾市0名

ミューズ大学図書館	新規	再登録	合計	対象
2016年度	31	56	87	高槻市在住者
2017年度	29	54	83	高槻市在住者
2018年度	23	51	74	高槻市在住者
2019年度	20	64	84	高槻市在住者
2020年度	30	48	78	高槻市在住者

堺キャンパス図書館	新規	再登録	合計	対象
2016年度	4	5	9	堺市在住者
2017年度	5	3	8	堺市在住者
2018年度	8	6	14	堺市在住者
2019年度	8	8	16	堺市在住者
2020年度	12	11	23	堺市在住者

(2) 図書資料の利用に関する統計

a 館別・月別図書利用者数および利用冊数

利用者区分		月												合計	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
総 合	館 内 閲 覧	学部学生	9	—	69	162	53	149	383	389	431	261	19	8	1,933
			12	—	116	297	88	268	609	645	744	414	33	15	3,241
		大学院学生	18	—	40	51	26	56	54	47	33	32	23	26	406
			59	—	90	110	52	103	92	89	57	47	50	47	796
		教職員	11	—	17	35	29	28	30	25	21	20	9	18	243
			24	—	29	59	65	65	43	32	37	68	14	25	461
	64	—	58	92	80	123	155	136	87	129	84	86	1,094		
	207	—	139	258	179	333	408	366	262	374	245	197	2,968		
	102	—	184	340	188	356	622	597	572	442	135	138	3,676		
	302	—	374	724	384	769	1,152	1,132	1,100	903	342	284	7,466		
図 書 館	館 外 貸 出	学部学生	460	—	1,205	3,477	1,196	3,480	7,960	7,604	8,162	5,624	944	693	40,805
			1,257	—	2,931	8,743	3,067	6,979	15,278	14,738	16,357	12,560	2,199	1,484	85,593
		大学院学生	355	—	451	794	432	931	1,520	1,232	1,254	978	522	525	8,994
			1,023	—	1,100	1,892	1,078	2,161	3,096	2,427	2,614	2,178	1,269	1,284	20,122
		教職員	318	—	317	510	420	742	932	757	772	640	425	567	6,400
			775	—	866	1,284	1,003	1,640	1,625	1,485	1,516	1,441	941	1,204	13,780
	308	—	357	623	542	695	831	796	721	701	551	635	6,760		
	791	—	832	1,375	1,392	1,749	1,906	2,129	1,790	1,792	5,750	3,176	22,682		
	1,441	—	2,330	5,404	2,590	5,848	11,243	10,389	10,909	7,943	2,442	2,420	62,959		
	3,846	—	5,729	13,294	6,540	12,529	21,905	20,779	22,277	17,971	10,159	7,148	142,177		
	1,543	—	2,514	5,744	2,778	6,204	11,865	10,986	11,481	8,385	2,577	2,558	66,635		
	4,148	—	6,103	14,018	6,924	13,298	23,057	21,911	23,377	18,874	10,501	7,432	149,643		
高 槻 キ ャ ン パ ス 図 書 館	館 内 閲 覧 ・ 館 外 貸 出	学部学生	17	—	17	29	15	103	309	228	243	139	19	16	1,135
			44	—	53	76	35	207	584	393	479	366	36	29	2,302
		大学院学生	14	—	20	15	15	26	26	18	25	20	7	8	194
			25	—	44	25	23	46	33	24	38	38	16	18	330
		教職員	8	—	11	18	13	24	18	26	23	17	11	10	179
			17	—	28	40	44	61	30	77	50	37	21	16	421
	7	—	6	6	2	11	10	4	10	5	6	25	92		
	8	—	32	9	3	20	16	115	12	10	7	34	266		
	46	—	54	68	45	164	363	276	301	181	43	61	1,602		
	94	—	157	150	105	334	663	609	579	451	80	99	3,321		
ミ ュ ー ズ 大 学 図 書 館	館 内 閲 覧 ・ 館 外 貸 出	学部学生	15	—	26	96	42	91	137	133	182	190	72	22	1,006
			36	—	76	222	99	151	242	263	332	418	146	37	2,022
		大学院学生	10	—	6	18	12	18	24	11	9	5	6	8	127
			14	—	17	35	21	29	33	20	20	7	18	17	231
		教職員	14	—	15	18	15	23	29	17	20	14	15	9	189
			26	—	23	37	28	36	62	43	26	22	33	18	354
	53	—	27	112	60	91	110	93	107	92	72	89	906		
	102	—	52	240	120	191	208	179	330	183	153	176	1,934		
	92	—	74	244	129	223	300	254	318	301	165	128	2,228		
	178	—	168	534	268	407	545	505	708	630	350	248	4,541		
堺 キ ャ ン パ ス 図 書 館	館 内 閲 覧 ・ 館 外 貸 出	学部学生	21	—	24	161	36	99	261	218	228	251	22	33	1,354
			65	—	49	436	97	193	491	423	424	489	47	72	2,786
		大学院学生	1	—	2	10	6	7	12	6	8	7	8	1	68
			1	—	5	27	12	16	33	31	9	9	16	1	160
		教職員	11	—	15	21	11	17	34	18	40	22	13	9	211
			34	—	28	66	24	39	64	40	92	60	29	21	497
	35	—	18	42	26	53	64	51	42	38	34	30	403		
	68	—	42	117	58	101	220	101	83	65	65	65	920		
	68	—	59	234	79	176	371	293	318	318	77	73	2,066		
	168	—	124	646	191	349	808	595	608	623	157	159	4,428		

注1 館内閲覧・館外貸出ともに上段は利用者数、下段は利用冊数を示す。

注2 総合図書館の館内閲覧は、書庫図書の出納・取り寄せによる館内閲覧手続を行なったものを示す。

注3 緊急事態宣言発出に伴う休館 4月11日～6月14日

b 月別入庫検索者数（総合図書館）

利用区分		月												合計	
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
総合図書館	入庫検索	学部学生	20	—	144	206	128	365	795	814	928	347	125	57	3,948
	大学院学生	117	—	242	290	158	319	627	497	509	398	250	249	3,720	
	教職員	165	—	211	284	226	424	552	438	393	340	234	342	3,688	
	その他	14	—	23	20	18	39	68	53	49	41	33	56	415	
	計	316	—	620	800	530	1,147	2,042	1,802	1,879	1,126	642	704	11,771	

注1 入庫検索とは、図書館利用規程第13条による書庫図書の利用をいう。

注2 「その他」とは、特別の事由により入庫を許可された研究員等を示す。

c-1 グループ閲覧室の利用状況（総合図書館）

区分	月別												合計	月平均 (日・祝日を除く)
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
利用コマ数	—	—	—	—	—	3	13	15	14	0	0	4	49	4.1
利用者数	—	—	—	—	—	26	146	180	153	0	0	12	517	43.0

注1 授業時間90分をコマ単位としている。

注2 春学期は利用を停止した。

c-2 グループ閲覧室の利用目的（総合図書館）

申込件数	コマ数	実人数
授業目的	30	417
研究会利用	14	72
資料の閲覧	1	4
読書会	2	10
その他（落書き消しや撮影）	2	14
計	49	517

c-3 ラーニング・コモنزの利用状況（総合図書館）

ワーキング・エリア利用状況

区分	月別												合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
利用件数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
利用者数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
一日あたりの利用者数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

注1 年間を通して利用を停止した。

ワークショップ・エリア利用状況

区分	月別												合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
利用件数	—	—	—	—	—	1	5	6	1	0	0	0	13
利用者数	—	—	—	—	—	19	84	128	37	0	0	0	268

注1 春学期は利用を停止した。

c-4 ラーニング・コモنزの利用目的（総合図書館）

ワーキング・エリア

利用目的	件数
授業関連・グループ学習	—
自主学习	—
卒業論文・修論準備	—
その他	—
計	—

ワークショップ・エリア

利用目的	件数
授業・ゼミ	6
その他	—

d-1 webによるサービスの利用状況

サービス種別	件数
蔵書検索	1,534,671 (0)
予約申込	8,191 (631)
相互利用申込	1,436
購入希望申込	2,186

注1 蔵書検索件数および予約申込件数についてはmobile opacによる検索数も含み、内数で（ ）で示す。

注2 購入希望はWeb以外に書類提出によるものもある。

d-2 web機能の使用状況

web機能	件数
予約資料到着連絡	4,958
複写物到着連絡	798
借用本到着連絡	298
相互利用謝絶連絡	294
購入希望謝絶連絡	80
返却督促連絡(翌日)	11,499
返却督促連絡(2週間後)	2,619

e 文献複写サービス

(単位：枚)

種別	区分	総合図書館	高槻キャンパス図書館	ミューズ大学図書館	堺キャンパス図書館	小計
電子式複写	モノクロ	257,875	7,879	3,137	2,430	271,321
	カラー	375	2,290	15	12	2,692
	マイクロ	5,201	0	0	0	5,201
	合計	263,451	10,169	3,152	2,442	279,214

注1 「モノクロ」はモノクロ複写とモノクロプリントアウトの合計枚数。

注2 「カラー」はカラー複写とカラープリントアウトの合計枚数。

f 図書館間相互利用件数

種別 月別	国内								国外								
	提供				依頼				提供				依頼				
	閲覧	貸出	複写	合計	閲覧	借用	複写	合計	閲覧	貸出	複写	合計	閲覧	借用	複写	合計	
4月	5	27	70	102	0	22	44	66	0	0	0	0	0	0	0	6	6
5月	0	1	3	4	0	6	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	18	22	155	195	0	14	69	83	0	0	0	0	0	0	0	6	6
7月	14	48	185	247	0	35	116	151	0	3	1	4	0	0	0	5	5
8月	14	35	95	144	0	22	105	127	0	1	1	2	0	0	0	4	4
9月	24	61	263	348	1	34	255	290	0	0	0	0	0	0	0	17	17
10月	16	59	240	315	1	42	244	287	0	1	1	2	0	0	0	22	22
11月	23	37	207	267	1	57	153	211	0	0	1	1	0	0	0	20	20
12月	13	43	294	350	1	46	163	210	0	0	0	0	0	0	0	8	8
1月	12	37	173	222	1	36	186	223	0	0	0	0	0	0	0	23	23
2月	3	32	156	191	0	26	61	87	0	0	1	1	0	0	0	2	2
3月	6	64	163	233	0	41	90	131	0	1	3	4	0	0	0	10	10
合計	148	466	2,004	2,618	5	381	1,486	1,872	0	6	8	14	0	0	0	123	123

注1 提供の貸出と複写、依頼の借用と複写の件数にはキャンセル件数を含む。

g 参考業務(総合図書館)

区分	学内利用者				学外利用者			合計
	教職員	大学院学生	学部学生	その他	校 友	諸機関	その他	
調査	所蔵	11	8	8	0	0	0	27
	事項	10	5	8	1	0	0	25
	その他	0	0	0	0	0	0	0
	計	21	13	16	1	0	0	52

注1 総合図書館における申込書の提出により処理した件数。

注2 学内利用者中の「その他」には、学内他部署からの業務上の問い合わせのほか、科目等履修生、聴講生、留学生別科生を含む。

h 利用指導

種別	区分	総合図書館			高槻キャンパス図書館			ミューズ大学図書館			堺キャンパス図書館		
		件数	クラス	人数	件数	クラス	人数	件数	クラス	人数	件数	クラス	人数
①	入門ガイダンス「蔵書検索を学ぼう」	22	22	243	0	0	0	0	0	0	3	2	34
②	活用ガイダンス「文献のさがし方を学ぼう」	7	7	135	0	0	0	0	0	0	1	1	13
③	上位年次生のための入庫ガイダンス	557	5	613	12	0	12	0	0	0	0	0	0

注1 件数は実施回数、クラス数は参加したクラス数、人数は参加者延べ数である。

注2 ①②はクラス・ゼミ・研究室対象。

注3 ③は各図書館で実施した総合図書館地下書庫ガイダンスで、クラス単位と個人単位の総数。

i 学内で閲覧利用できる電子ジャーナル

種 類	タイトル数 (端数が不明のものは概数)	種 類	タイトル数 (端数が不明のものは概数)
ACS (American Chemical Society)	64	OUP (Oxford Journals)	265
APS (American Physical Society)	11	RSC (Royal Society of Chemistry)	47
beck-online (大学パッケージプレミアム版)	234	SAGE Journal (Premier+IMechE)	1,006
CUP (Cambridge University Press)	404	SpringerLink e-Journal	2,261
Elsevier ScienceDirect	2,265	Taylor & Francis	2,020
Emerald Management eJournal Portfolio	213	Wiley Online Library	1,642
IEL Online (IEEE/IET Electronic Library)	455	日経 BP 記事検索サービス	29
JSTOR (Arts & Sciences I)	115	その他	3,931
		合 計	14,962

注1 2020年まで取り上げていた OECD iLibrary Packages については、2020年3月末に契約解除したため、当該計の対象から外した。

j 過去5年間の文献・情報データベース検索回数

種 別	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	備 考
1 AFP World Academic Archive *	86	258	138	4 (1-3月)	—	2014年4月～2019年3月
2 beck-online: プレミアム版 (ドイツ法情報データベース)	計数されていない	計数されていない	計数されていない	計数されていない	計数されていない	2007年4月～
3 Bibliography of British and Irish History *	14	8	13	2	0 (1-3月)	2011年5月～2020年3月
4 Business Source Complete (ビジネス関連データベース)	7,568	7,046	7,177	4,577	2,444	2012年2月～
5 CiNii (NII 論文情報ナビゲータ)	598,592	389,476	195,933	190,225	117,712	2005年4月～
6 DBpia	1,333	1,595	1,723	1,388	1,594	2014年4月～
7 eBook Collection (EBSCOhost)	7,642	10,503	8,825	4,866	1,873	2011年7月～
8 EconLit with Full Text	1,495	5,587	5,481	3,331	1,893	2012年2月～
9 The Economist Historical Archive 1843-2015	88	72	169	164	14 (1-3月)	2012年7月～2020年3月
10 Eighteenth Century Collections Online (ECCO1&2)	79	556	114	477	455	2013年4月～
11 英国国立国際問題研究所 (チャタム・ハウス) オンライン・アーカイブ	24	15	88	13	6 (1-3月)	2014年4月～2020年3月
12 Entertainment Industry Magazine Archive	—	—	—	—	—	2013年4月～2020年3月
13 eol (有価証券報告書を含む企業情報データベース)	38,149	128,417	118,368	128,343	1,046,051	2006年4月～
14 Factiva.com	3,053	3,744	4,309	7,006	11,901	2013年4月～
15 Frantext	計数されていない	計数されていない	計数されていない	計数されていない	—	2007年10月～2019年9月
16 Global Trade Atlas *	34	23	20	2 (1-3月)	—	2014年4月～2019年3月
17 ゴールドスマス・クレス両文庫所蔵社会科学系学術図書データベース (MOMW I & II) ★	9	5	13	6	12	2013年4月～
18 新・判例解説 Watch *	230	242	191	223	139	2011年7月～
19 Hein Online	740	1,226	1,344	1,332	1,177	2012年～
20 法律文献総合 INDEX *	344	267	233	269	137	2011年7月～
21 法律判例文献情報 (法関連文献索引) *	2,721	2,511	2,306	2,381	1,557	2006年4月～
22 18th Century House of Commons, Parliamentary Papers ★	0	0	0	0	0	2013年4月～
23 19th & 20th Century House of Commons, Parliamentary Papers ★	2	44	31	47	13	2009年～
24 医中誌 Web	3,566	6,671	4,223	3,138	3,044	2014年4月～
25 ICPSR ★	108	225	71	563	1,045	2005年4月～
26 The Illustrated London News Historical Archive 1842-2003	93	103	219	156	5 (1-3月)	2013年4月～2020年3月
27 Integrum ★	194	122	138	154	0 (1-3月)	2013年4月～2020年3月
28 Music Periodicals Database	—	—	—	—	—	2013年4月～
29 International Medieval Bibliography Online *	14	17	13	2	0 (1-3月)	2011年5月～2020年3月
30 ジャパンナレッジ Lib (百科事典データベース) △	39,082	43,839	44,541	39,020	82,886	2005年4月～
31 The Japan Times Archives	69	268	561	135	400	2015年4月～
32 JCIF (国際金融情報センターオンラインサービス)	17	10	110	45	0 (1-3月)	2006年4月～2020年3月
33 JDream III (科学技術情報索引)	20,805	17,492	15,096	13,729	10,409	2004年～
34 Journal Citation Reports	526	965	657	780	330	2010年4月～
35 JURIS Online (ドイツ法律情報データベース) ★	2,028	1,572	1,368	1,527	2,030	2004年10月～
36 化学書資料館 (国内で発行された化学書データベース)	3,228	1,716	1,897	2,935	817 (1-3月)	2007年4月～2020年3月
37 官報情報データベース ▲	6	7	9	13	4	2006年4月～
38 聞蔵II ビジュアル (朝日新聞記事索引) *	40,380	60,518	25,143	49,837	32,975	2006年10月～
39 KISS △	3,850	2,561	2,618	2,887	1,302	2008年8月～
40 公的判例集データベース *	387	469	349	346	175	2011年7月～
41 Kuselit Online	計数されていない	計数されていない	計数されていない	計数されていない	計数されていない	2014年4月～2020年3月
42 教保文庫スカラー	328	546	744	426	92 (1-3月)	2014年4月～2020年3月
43 LearnTechLib	計数されていない	計数されていない	計数されていない	計数されていない	計数されていない	2015年～
44 LEX/DB インターネット (法律情報データベース) *	5,483	5,135	5,156	6,196	3,943	2003年4月～
45 Lexis (旧 Lexis Advance) (法情報索引)	2,198	1,562	773	1,505	1,399	2003年～
46 MagazinePlus (和雑誌記事索引)	21,913	41,859	18,968	45,239	7,178	2003年～
47 毎索 (毎日新聞記事索引)	6,321	6,423	6,261	5,565	7,429	2005年4月～

	種 別	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	備 考
48	MathSciNet (数学文献データベース)	10,152	11,017	7,751	19,030	—	2006年11月～2019年12月
49	MLA International Bibliography *	—	—	—	23,415(4-12月)	3,423(1-3月)	2011年4月～2020年3月
50	Mpac (マーケティング情報サービス)	1,081	557	566	347	1 (1-3月)	2007年10月～2020年3月
51	日本文学 web 図書館 (和歌&俳諧ライブラリー) *	236	495	325	348	27(1-3月)	2013年4月～2020年3月
52	日経 NEEDS-Financial QUEST (社会・地域統計) ★	4,920	17,903	33,457	1,353	1	2002年7月～
53	日経テレコン (日本経済新聞ビジネス情報データベース) ☆	1,512,327	1,545,578	1,814,449	3,005,849	1,778,746	2003年10月～
54	19th Century U.S. Newspapers	138	130	431	218	5(1-3月)	2014年4月～2020年3月
55	Oxford English Dictionary	1,089	791	469	361	108(1-3月)	2014年4月～2020年3月
56	ProQuest Basic Search (専門分野型データベース)	2,142	2,218	2,697	3,173	3,775	2003年11月～
57	ProQuest Congressional	32	33	10	65	53(1-3月)	2003年～2020年3月
58	PsycARTICLES (心理学文献データベース)	3,872	3,622	6,349	4,147	2,038	2014年4月～
59	PsycINFO (心理学雑誌記事・文献索引)	3,835	3,634	6,284	4,151	378(1-3月)	2006年4月～2020年3月
60	Regional Business News (地域ビジネス関連データベース)	863	4,790	4,363	2,908	1,510	2012年2月～
61	産経新聞データベース *	2,519	2,527	2,481	2,951	3,730	2014年4月～
62	SciFinder (化学情報データベース)	61,294	57,728	46,100	58,747	11,908(1-3月)	2003年～
63	Super 法令 web *	95	76	93	105	84	2011年7月～
64	The Times Digital Archive 1785-1985	201	217	739	172	10(1-3月)	2012年7月～2020年3月
65	Translation Studies Bibliography *	6	1	28	46(1-3月)	—	2012年4月～2019年3月
66	Web of Science (引用・被引用論文索引)	34,908	34,129	43,353	48,013	45,653	2001年8月～
67	Web OYA-bunko (大宅社一文庫雑誌記事索引) *	225	311	256	322	34(1-3月)	2005年11月～2020年3月
68	Westlaw Next (法情報索引)	3,055	6,912	4,257	2,673	4,082	2003年～
69	World Bank e-Library	13	16	14	12(1-3月)	—	2014年4月～2019年3月
70	山一証券株式会社 第一期・オンライン版△	9	33	19	13	—	2014年4月～
71	ヨミダス歴史館 (読売新聞記事索引)	11,456	11,312	10,527	16,560	25,489	2005年4月～
72	CNKI (中国学術文献オンラインサービス)	—	—	—	—	4,165(4-12月)	2020年4月～
73	東洋経済デジタルコンテンツ・ライブラリー△	—	—	—	—	51,907(4-12月)	2020年4月～
74	Doctrinal Plus	—	—	—	—	1,015(4-12月)	2020年4月～
75	Lexis360	—	—	—	—	276(4-12月)	2020年4月～
76	National Geographic Virtual Library	—	—	—	—	241(4-12月)	2020年4月～
77	ProQuest Historical Newspapers: Chinese Newspapers Collection,1832-1953	—	—	—	—	2,877(4-12月)	2020年4月～
78	Wall Street Journal	—	—	—	—	74(4-12月)	2020年4月～
79	群書類従 (正・続・続々) <JKBooks>	—	—	274(4-12月)	746	1,507	2018年4月～
80	東洋経済新報/週刊東洋経済 デジタルアーカイブ 第1期 [大正期] <JKBooks>	—	—	0(4-12月)	1	15	2018年4月～
81	Japan-U.S. Economic Relations Group Records, 1979-1981	—	—	61(7-12月)	3	54	2018年7月～
82	Cold War Voices of Confrontation and Conciliation	—	—	42(11-12月)	3	52	2018年11月～
83	鎌倉遺文 I △	—	—	—	29(8-12月)	193	2019年8月～
84	鎌倉遺文 II △	—	—	—	—	350(1-3月)	2020年1月～
85	ゴールドスミス・クレス両文庫所蔵社会科学系学術図書データベース (MOMW III)	—	—	—	—	40(1-3月)	2020年1月～
86	Business Archives Online (企業史料統合データベース) <J-DAC>	145	133	131	264	86	2012年12月～
87	通産政策史資料 <J-DAC>	24	17	5	15	12	2015年1月～
88	近現代史料データベース <J-DAC>	0 (12月)	8	163	11	70	2016年12月～
89	地方自治関係資料 <J-DAC>	—	0(11-12月)	1	3	0	2017年11月～
90	スポーツ産業史データベース <J-DAC>	—	—	4(10-12月)	1	0	2018年10月～
91	全国商工会議所関係資料 <J-DAC>	—	—	0 (12月)	48	92	2018年12月～
92	都市問題と地方自治 <J-DAC>	—	—	—	0 (12月)	9	2019年12月～
93	近代文学作家自筆資料集 <J-DAC>	—	—	—	—	16(10-12月)	2020年10月～

注1 統計算出方法について

- (1) 各統計は、1月～12月までの検索回数合計である。統計値については、データベース提供機関が独自の基準で計数した値をそのまま利用しているため、それぞれの統計値が必ずしも同じ算出方法であるとは限らない。
- (2) *はログイン回数、☆は結果表示件数、★はダウンロード件数、△はページビュー数、▲は利用申込者数を示す。
- (3) 表中の「—」は、当該年度が利用(統計計上)開始前または利用提供終了(提供方法変更)後であることを、または別の統計に含まれていることを示す。
- (4) 2020年の統計値について、新型コロナウイルス感染症拡大に対する各出版社等の支援サービスにより、同時アクセス数が契約内容よりも増えたことで、大幅に検索回数等が増えているものがある。

注2 各データベースに係る注記

- 5 CiNii は、CiNii Articles のみの利用統計から、2014年の統計より CiNii 全体の利用統計に計数の方法が変更になった。NII-ELS の終了に伴い、2017年4月よりサイト上での論文提供サービスを終了した。
- 12 2014年以降の統計は56に含まれる。
- 13 図書館及び会計研究科での利用状況。
- 17 ゴールドスミス・クレス両文庫所蔵社会科学系学術図書データベース (MOMW I) は、2014年4月以降、The Making of the Modern World, Part II: 1851-1914 (MOMW II) を含む。2015年からプラットフォームの変更に伴い、検索回数からダウンロード件数へ計数の方法が変更になった。
- 19 Hein Online は、World Constitutions Illustrated, U.S. Federal Agency Documents, Decisions, and Appeals, History of International Law を含む。
- 28 2016年以降の統計は56に含まれる。
- 30 83、84の鎌倉遺文 I・IIの統計値を除くため、2019年より計数方法を変更し、ページビュー数を計数することとした。なお、2020年度より同時アクセス数が新たに2アクセス追加となり、合計4となっている。
- 35 JURIS Online の統計値には、文書取件数(文書(全文・要約・抄録等)の閲覧件数)を計上している。
- 45 2017年4月に Lexis.com は、Lexis Advance にバージョンアップした。また、2020年10月より、Lexisへ名称変更した。

- 49 2016年～2019年3月までの統計は56に含まれる。2019年4月以降は出版社が変更となり、個別にログイン数を計数している。
- 54 19th Century U.S. Newspapersの2017年統計値は、122ではなく130が正しいものとなる。
- 56 ProQuest Basic Searchには、ERIC、LISA(2020年3月まで)、LLBA(2020年3月まで)、Worldwide Political Science Abstracts(2020年3月まで)、Sociological Abstracts、PILOTS、Social Services Abstracts、Entertainment Industry Magazine Archive(2020年3月まで)、Music Periodicals Database、MLA International Bibliography(2019年3月まで)が含まれる。また、2014年4月よりProQuest Dissertations & Theses Global(2020年3月まで)、ProQuest Historical Annual Reportsが含まれる。
- 61 2018年4月より、オンライン記事検索サービスの名称が、The Sankei Archivesから産経新聞データベースへ変更された。
- 62 SciFinderは、2020年4月から新しいバージョンのSciFinder-nが利用できることとなったが、出版元が利用統計を提供しない方針のため、従来のSciFinderのみの統計を計数している。
- 64 The Times Digital Archive 1785-1985の2017年統計値は、203ではなく217が正しいものとなる。
- 70 山一証券株式会社 第一期・オンライン版の2020年統計値は、出版社のデータ取得方法変更に伴う不具合発生により利用統計は取得不可となった。
- 72 図書館、経済・政治研究所及び法学研究所で契約している5分野すべての利用状況。
- 72～78 2019年度に新規資料を募集し、最終的に2020年4月～新規契約を行ったタイトルのため、今回から統計対象とするもの。
- 79～82、85 2018年度以降に買い切り資料として購入したタイトルについて、新たに統計対象とするもの。
- 83、84 ジャパンナレッジLibのプラットフォームを使用しているが、ページビュー数であれば個別の統計値が取得できるため、2019年より計数方法を変更し個別に掲載するもの。
- 86 Business Archives Online(企業史料統合データベース)は、2014年4月より有価証券報告書を含む。なお、2016年数値は147ではなく145が、2018年数値は130ではなく131が正しいものとなる。
- 87～93 86に加え、人文社会系史料のオンライン配信プラットフォームであるJ-DAC(ジャパン デジタル アーカイブズ センター)で閲覧できる買い切り資料として購入したタイトルについて、新たに統計対象とするもの。

k リポジトリ登録件数・アクセス数・ダウンロード数

リポジトリ登録件数(累計)	18,843
同上 アクセス数(累積)	370,956
同上 ダウンロード数(累積)	869,074

l 閲覧・ダウンロード件数

電子化資料	画像数	刊行物	掲載状態	
源氏物語他190点	19,535	図書館フォーラム25号	全文掲載	58ページ

m キャンパス間相互利用件数(予約取寄せ)

		提供冊数(受付館)				合計
		総合図書館	高槻キャンパス図書館	ミューズ大学図書館	堺キャンパス図書館	
受入冊数 (依頼館)	総合図書館		1,136	649	1,074	2,859
	高槻キャンパス図書館	445		25	39	509
	ミューズ大学図書館	1,158	149		103	1,410
	堺キャンパス図書館	539	82	25		646
	合計	2,142	1,367	699	1,216	5,424

n 利用者用パソコン設置台数

総合図書館	高槻キャンパス図書館	ミューズ大学図書館	堺キャンパス図書館	合計
127	9	10	16	162

(3) 蔵書に関する統計

① 収書状況

a 図書資料の所蔵数（2020年度末現在）

区 分	種 別		図書の冊数（冊）		定期刊行物の種類数		視聴覚資料 の所蔵数 (点数)	電子ジャー ナルの種類 (点数)	電子書籍 (点数)
	図書の冊数	開架図書の 冊数(内数)	内国書	外国書					
総合図書館	2,200,616	238,723	15,172 (1,925)	8,817 (818)	124,152	14,962	10,359		
高槻キャンパス図書館	58,921	58,921	271 (143)	246 (56)	489	—	—		
ミューズ大学図書館	48,540	48,540	411 (142)	73 (16)	230	—	—		
堺キャンパス図書館	51,571	51,571	185 (145)	44 (22)	166	—	—		
法学部資料室	33,185	33,185	1,028 (370)	50 (12)	79	1	0		
経商資料室	32,986	32,986	765 (402)	228 (28)	0	1	0		
社会学部資料室	27,922	27,922	1,116 (151)	45 (4)	341	0	0		
法科大学院ロー・ライブラリー	15,306	15,306	74 (74)	0 (0)	0	0	0		
会計専門職大学院図書資料室	1,241	1,241	10 (10)	0 (0)	0	0	0		
東西学術研究所	18,777	0	778 (134)	144 (9)	121	0	1		
経済・政治研究所	20,013	0	52 (50)	1 (1)	0	2	0		
法学研究所	15,922	0	73 (73)	0 (0)	0	1	0		
人権問題研究室	25,495	24,355	70 (70)	2 (2)	111	0	0		
計	2,509,694	254,366	20,005 (3,689)	9,650 (968)	125,499	14,965	10,360		

注1 図書の冊数には、製本した雑誌等逐次刊行物を含む。

注2 視聴覚資料は、マイクロフィルム、マイクロフィッシュが大半を占め、カセットテープ、ビデオテープおよびCD-ROM・DVD-ROM等を含み、図書の冊数の内数である。

注3 定期刊行物の種類数には電子ジャーナルの種類数は含んでいない。下段（ ）は内数で、継続して受け入れている種類数。

注4 電子ジャーナルの種類数は延べ数で、総合図書館で集中管理をしている。

b 過去5年間の図書の受入数

(単位：冊)

館	年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
	総合図書館		21,730	25,369	20,821	20,016
高槻キャンパス図書館		1,501	1,672	1,579	1,521	1,923
ミューズ大学図書館		1,450	1,588	1,417	1,560	1,552
堺キャンパス図書館		1,896	1,998	1,896	1,967	2,167
計		26,577	30,627	25,713	25,064	24,646

注1 製本した雑誌等逐次刊行物を含む。

c 図書資料異動状況

(単位：点)

区分	種別	和書	洋書	マイクロ資料		その他	合計
				フィルム	フィッシュ		
取得内訳	購入	15,249	4,735	52	0	71	20,107
	受贈	710	17	0	0	0	727
	その他	2,465	1,275	72	0	0	3,812
	合計	18,424	6,027	124	0	71	24,646
除籍抹消		4,377	3,467	0	0	1	7,845
増減計		14,047	2,560	124	0	70	16,801
期末在高		1,411,191	819,886	96,342	24,149	8,080	2,359,648

注1 中国語・朝鮮語図書は、和書に含める。

注2 「種別」の「その他」はAV資料、CD-ROM、DVD-ROM等の資料を含む。

d 雑誌・新聞受入種類数

区分	種別	雑誌・新聞		
		和	洋	合計
取得内訳	購入	1,452	851	2,303
	受贈	845	39	884
	その他	58	22	80
	合計	2,355	912	3,267

注1 中国語・朝鮮語図書は、和書に含める。

② 分類別所蔵図書冊数（日本十進分類法による）

分類	内 訳	和	洋	合 計
000	総 記	15,538	11,977	27,515
010	図書館, 図書館情報学	6,911	4,654	11,565
020	図書, 書誌学	17,387	14,625	32,012
030	百科事典, 用語索引	3,559	3,958	7,517
040	一般論文集, 一般講演集, 雑著	18,194	1,575	19,769
050	逐次刊行物, 一般年鑑	23,490	8,019	31,509
060	団体, 博物館	1,369	476	1,845
070	ジャーナリズム, 新聞	17,458	7,452	24,910
080	叢書, 全集, 選集	56,846	18,621	75,467
090	貴重書, 写本資料, その他の特別コレクション	1,250	2,338	3,588
総記・計		162,002	73,695	235,697
100	哲 学	4,203	5,471	9,674
110	哲学各論	2,567	3,926	6,493
120	東洋思想	18,853	754	19,607
130	西洋哲学	7,922	20,250	28,172
140	心理学	13,788	15,640	29,428
150	倫理学, 道徳	4,025	1,494	5,519
160	宗 教	5,983	4,310	10,293
170	神 道	2,654	56	2,710
180	仏 教	15,995	1,908	17,903
190	キリスト教, ユダヤ教	6,564	9,022	15,586
哲学・計		82,554	62,831	145,385
200	歴史, 世界史, 文化史	6,739	10,681	17,420
210	日本史	53,254	1,221	54,475
220	アジア史, 東洋史	33,561	5,239	38,800
230	ヨーロッパ史, 西洋史	5,421	17,746	23,167
240	アフリカ史	328	1,591	1,919
250	北アメリカ史	781	2,784	3,565
260	南アメリカ史	97	95	192
270	オセアニア史, 両極地方史	99	167	266
280	伝 記	22,528	7,142	29,670
290	地理, 地誌, 紀行	30,476	6,764	37,240
歴史・計		153,284	53,430	206,714
300	社会科学	13,603	8,194	21,797
310	政 治	42,618	49,197	91,815
320	法 律	63,389	89,877	153,266
330	経 済	91,445	95,091	186,536
340	財 政	8,161	6,920	15,081
350	統 計	9,353	5,811	15,164
360	社 会	63,949	53,218	117,167
370	教 育	49,168	13,887	63,055
380	風俗習慣, 民俗学, 民族学	17,811	4,466	22,277
390	国防, 軍事	4,001	1,462	5,463
社会科学・計		363,498	328,123	691,621
400	自然科学	7,777	8,769	16,546
410	数 学	10,217	14,924	25,141
420	物理学	6,024	15,395	21,419
430	化 学	6,300	12,988	19,288
440	天文学, 宇宙科学	2,395	1,036	3,431
450	地球科学, 地学	7,397	4,261	11,658
460	生物科学, 一般生物学	6,508	8,550	15,058
470	植物学	1,270	226	1,496
480	動物学	2,405	495	2,900
490	医学, 薬学	25,380	10,697	36,077
自然科学・計		75,673	77,341	153,014
500	技術, 工学	15,995	21,892	37,887
510	建設工学, 土木工学	19,093	12,108	31,201
520	建築学	15,899	6,275	22,174
530	機械工学, 原子力工学	10,607	8,802	19,409
540	電気工学	23,814	16,299	40,113
550	海洋工学, 船舶工学, 兵器, 軍事工学	1,513	381	1,894
560	金属工学, 鉱山工学	5,877	6,249	12,126
570	化学工業	7,183	6,898	14,081
580	製造工業	4,649	1,476	6,125
590	家政学, 生活科学	1,881	420	2,301
技術・計		106,511	80,800	187,311

分類	内 訳	和	洋	合 計
600	産 業	5,443	416	5,859
610	農 業	12,622	4,361	16,983
620	園芸, 造園	1,257	221	1,478
630	蚕糸業	232	1	233
640	畜産業, 獣医学	988	149	1,137
650	林業, 狩猟	1,447	239	1,686
660	水産業	1,793	280	2,073
670	商 業	17,597	14,642	32,239
680	運輸, 交通, 観光事業	9,698	7,175	16,873
690	通信事業	3,546	2,399	5,945
産業・計		54,623	29,883	84,506
700	芸術, 美術	14,261	6,661	20,922
710	彫刻, オブジェ	1,019	301	1,320
720	絵画, 書, 書道	18,041	4,022	22,063
730	版画, 印章, 篆刻, 印譜	845	373	1,218
740	写真, 印刷	2,086	509	2,595
750	工 芸	4,332	1,378	5,710
760	音楽, 舞踏, バレエ	6,772	1,691	8,463
770	演劇, 映画, 大衆芸能	15,608	3,816	19,424
780	スポーツ, 体育	10,303	3,113	13,416
790	諸芸, 娯楽	1,852	238	2,090
芸術・計		75,119	22,102	97,221
800	言 語	5,015	15,843	20,858
810	日本語	11,372	303	11,675
820	中国語, その他の東洋諸言語	9,987	1,151	11,138
830	英語	7,007	10,618	17,625
840	ドイツ語, その他のゲルマン諸語	1,096	4,476	5,572
850	フランス語, プロバンス語	1,070	3,145	4,215
860	スペイン語, ポルトガル語	493	570	1,063
870	イタリア語, その他のロマンス諸語	145	407	552
880	ロシア語, その他のスラブ諸語	407	1,352	1,759
890	その他の諸言語	432	951	1,383
言語・計		37,024	38,816	75,840
900	文 学	12,615	10,998	23,613
910	日本文学	101,436	1,628	103,064
920	中国文学, その他の東洋文学	30,332	807	31,139
930	英米文学	8,717	25,843	34,560
940	ドイツ文学, その他のゲルマン文学	3,372	13,548	16,920
950	フランス文学, プロバンス文学	4,686	12,679	17,365
960	スペイン文学, ポルトガル文学	1,633	10,854	12,487
970	イタリア文学, その他のロマンス文学	512	570	1,082
980	ロシア・ソビエト文学, その他のスラブ文学	1,908	3,202	5,110
990	その他の諸言語文学	520	1,511	2,031
文学・計		165,731	81,640	247,371
合 計		1,276,019	848,661	2,124,680
その他				234,968
図書館蔵書数				2,359,648

- 注1 中国語・朝鮮語図書は、和書に含める。
 注2 2014年度にミューズ大学図書館および堺キャンパス図書館から移管を受けた資料を含む。
 注3 「その他」は、個人文庫などの未分類図書を表す。
 注4 分類名称は新訂10版による。

③ 分類別所蔵雑誌種類数（日本十進分類法による）

分類	内 訳	和	洋	合 計
000	総 記	4,781	977	5,758
100	哲 学	488	525	1,013
200	歴 史	848	339	1,187
300	社 会 学	4,026	3,541	7,567
400	自 然 学 科	747	934	1,681
500	技 術	1,721	1,618	3,339
600	産 業	681	359	1,040
700	芸 術	830	170	1,000
800	言 語	262	267	529
900	文 学	1,644	449	2,093
その他		12	1	13
合計		16,040	9,180	25,220

- 注1 中国語・朝鮮語図書は、和書に含める。
 注2 2014年度にミューズ大学図書館および堺キャンパス図書館から移管を受けた資料を含む。
 注3 重複するタイトルは、カウントしていない。

④ 分類別冊数と分類別冊数の全体に占める割合

a 分類別冊数

年度		2020年度			
分類	館名	総合図書館	高槻キャンパス 図書館	ミューズ大学 図書館	堺キャンパス 図書館
	000 総記		220,189	11,228	2,867
100 哲学		134,603	3,354	2,410	5,018
200 歴史		199,139	2,394	2,267	2,914
300 社会科学		638,553	18,393	16,823	17,852
400 自然科学		133,569	5,079	8,114	6,252
500 技術		173,038	5,598	7,678	997
600 産業		78,890	2,444	2,488	684
700 芸術		85,458	2,614	1,017	8,132
800 言語		66,470	5,100	2,199	2,071
900 文学		235,739	2,717	2,677	6,238
その他		234,968	0	0	0
合計		2,200,616	58,921	48,540	51,571

注1 総合図書館の蔵書のうち「その他」は、貴重書や特別コレクション・書状など十進分類法になじまないもの。

注2 2017年度から「その他」は、4キャンパス図書館ごとに算出することとした。

b 分類別冊数の全体に占める割合

年度		2020年度			
分類	館名	総合図書館	高槻キャンパス 図書館	ミューズ大学 図書館	堺キャンパス 図書館
	000 総記		10%	19%	6%
100 哲学		6%	6%	5%	10%
200 歴史		9%	4%	5%	6%
300 社会科学		28%	30%	34%	34%
400 自然科学		6%	9%	16%	12%
500 技術		8%	10%	16%	2%
600 産業		4%	4%	5%	1%
700 芸術		4%	4%	2%	16%
800 言語		3%	9%	5%	4%
900 文学		11%	5%	6%	12%
その他		11%	0%	0%	0%
合計		100%	100%	100%	100%

⑤ 図書館資料費執行額5年間の推移

(単位：円)

		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
図書	和	90,865,375	86,294,134	84,288,861	83,701,578	82,100,097
	洋	81,407,431	79,951,962	71,552,046	67,391,716	72,617,188
雑誌	和	30,454,818	29,520,048	32,401,608	28,552,190	26,869,675
	洋	365,449,403	330,814,027	348,152,804	355,108,041	359,138,162
電子媒体		629,996	3,420,619	2,233,737	1,605,997	1,225,125
マイクロ資料	和	629,856	1,797,336	7,318,080	3,333,456	1,785,520
	洋	833,902	373,554	0	0	0
その他の資料		14,256,315	18,258,932	27,649,781	37,072,965	37,739,219
外部データベース		93,344,220	93,257,202	90,371,348	86,242,698	76,512,849
合計		677,871,316	643,687,814	663,968,265	663,008,641	655,640,229
製本費		8,853,744	7,602,663	6,959,015	6,579,734	5,738,810

注1 中国語・朝鮮語図書は、和書に含める。

注2 「電子媒体」はCD-ROM、DVD-ROM等を含む。

注3 「その他の資料」には、追録、AV資料を含む。

⑥ 電子資料に係る経費の推移

(単位：円)

	2018年度	2019年度	2020年度
電子ジャーナル経費執行額	278,621,627	282,533,596	286,730,735
データベース経費執行額	90,371,348	86,242,698	76,512,849
電子書籍経費執行額	16,201,226	25,577,065	28,131,304
合 計	385,194,201	394,353,359	391,374,888

注1 「電子書籍経費執行額」は、図書費として予算を執行する資料（買い切り製品のデータベース及び電子で刊行される雑誌バックナンバー）の経費を含む。

(4) その他関連統計等

① 過去5年間の図書館職員

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
専任職員 〔人数〕	21	19	18	18	18
定時職員 〔総勤務時間〕	11,680	11,680	11,750	12,700	11,750
備 考	収書担当業務に2名、サービス担当業務に3名、システム担当業務に1名、計6名の「派遣職員」を採用。	収書担当業務に2名、サービス担当業務に3名、システム担当業務に1名、計6名の「派遣職員」を採用。	収書担当業務に3名、システム担当業務に1名、庶務担当業務に1名計5名の「派遣職員」を採用。	収書担当業務に3名、システム担当業務に1名、庶務担当業務に1名計5名の「派遣職員」を採用。	収書担当業務に3名、システム担当業務に1名、庶務担当業務に1名計5名の「派遣職員」を採用。

注1 定時職員は各人の勤務時間数が異なり、人数での比較が困難なため総予算時間数を記載した。

注2 4月1日現在の職員数を示す。

② 学生の閲覧座席数（2021年4月1日現在）

図書館の名称	学生閲覧室 座席数(A)	学生収容定員 (B)	収容定員に対す る座席数の割合 A/B*100 (%)	その他の学習 室の座席数	備 考 【学生収容定員内訳】
総合図書館	2,260	23,514	9.61	—	(千里山キャンパス) ① 学部 21,668名 ② 大学院 1,876名
高槻キャンパス図書館	235	2,214	10.61	—	(高槻キャンパス) ① 学部 2,090名 ② 大学院 124名
ミューズ大学図書館	134	1,145	11.70	—	(高槻ミューズキャンパス) ① 学部 1,100名 ② 大学院 45名
堺キャンパス図書館	272	1,352	20.12	—	(堺キャンパス) ① 学部 1,320名 ② 大学院 32名
計	2,901	28,225	10.28	—	① 学部 26,178名 ② 大学院 2,077名

③ 10年間の展示会テーマと会期

年 度		展示のテーマと講演会の演題	会 期
2011年度	特別展	「大坂文人・学者の世界—江戸時代を中心に—」	2011年4月1日～5月15日
	EUi企画	日・EUフレンドシップウィーク展示「ヨーロッパのメガネ男子」	2011年5月20日(金)～6月3日(金)
2012年度	EUi企画	日・EUフレンドシップウィーク展示「LOVE LETTER from Europe」	2012年5月28日(月)～6月11日(月) (6月5日(火)除く)
2013年度	特別展	「なにわユーモア画譜」展特別企画としての「プレ展覧会 春爛漫コレクション」 大正葵丑蘭亭会百周年（おおさか）記念行事	2013年4月1日(月)～4月8日(月) 2013年4月1日(月)～5月19日(日) (総合図書館第一会議室及び展示室)
	EUi企画	日・EUフレンドシップウィーク展示「EU諸国の言語に翻訳された日本の小説」	2013年6月3日(月)～6月14日(金)
2014年度	図書館・博物館連携企画展	関西大学名品万華鏡 —館館選イチオシ!— (於: 関西大学博物館)	2014年4月1日(火)～5月18日(日)
	関西大学図書館創設100周年記念展示	関西大学図書館100年のあゆみ展	2014年4月1日(火)～5月18日(日)
	EUi企画	日・EUフレンドシップウィーク展示「アナザー・ワールド」	2014年6月30日(月)～7月14日(月)
	関西大学創立130周年記念展示	科学と芸術—著名院士学者書法展—	2015年3月27日(金)～4月23日(木)
2015年度	EUi企画	日・EUフレンドシップウィーク展示「EUのMultilingualism」	2015年5月8日(金)～5月24日(日)
2016年度	EUi企画	日・EUフレンドシップウィーク展示「ヨーロッパのカフェと文学」	2016年5月12日(木)～5月26日(木)
2017年度	実施せず		
2018年度	記念展示	「石濱純太郎とその学問・人脈」展	2018年10月22日(月)～11月17日(土)
2019年度	特別展示	新元号「令和」の出典である『万葉集』	2019年4月4日(木)～4月24日(水)
		新元号「令和」ゆかりの資料～『万葉集』『文選』『和漢朗詠集』を中心に～	2019年5月12日(日)～6月30日(日)
	企画展示	平成—11,070days—	2019年5月12日(日)～8月2日(金) (総合図書館2階開架カウンター前)
企画展「わたしたちは世界を変えられる」		2019年9月21日(土)～2020年1月30日(木) (総合図書館2階開架カウンター前)	
		SDGs パネル展「パートナーシップでつくる私たちの世界」	2019年11月16日(土)～12月6日(金)
2020年度	企画展示	企画展「知りたい!」が未来をつくる「知りたい!」で世界をひろげる「科学道100冊」	2020年3月25日(水)～2020年7月22日(水) (於: 総合図書館2階開架カウンター前)
		企画展「わたしたちは世界を変えられる Sustainable Development Goals」	2020年4月1日(水)～2021年3月22日(金) (於: 総合図書館2階開架カウンター前)
		企画展「向きあう、広がる、新学期」	2020年9月21日(月)～2021年1月30日(土) (於: 総合図書館2階開架カウンター前)

注1 展示会のうち場所を示していない場合は、総合図書館展示室において開催した。

④ 資料の出陳・放映（学外からの依頼分）

依頼機関	展示会・番組等の名称	会期・放映日	掲載・借用依頼資料	請求記号
読売新聞東京本社 文化事業部	特別展 「奇才—江戸絵画の冒険者たち—」	2020年6月2日(火) ～6月21日(日) ※18日間開催	十二ヶ月図 大石氏祇園一力康楽之圖 福祿寿 別世界巻	C2*721.8*M1*1-1/2 C2*721.8*M1*2 C2*721.8*M1*3 C2*721.8*M1*4
東京都江戸東京 博物館		2020年7月7日(火) ～8月30日(日) ※49日間開催		
山口県立美術館		2020年9月11日(金) ～11月8日(日) ※55日間開催		
あべのハルカス 美術館		2020年6月20日(土) 22:00放送		
株式会社日経映像	テレビ東京「新・美の巨人たち」 特別編「ゆるい日本画」	2020年6月20日(土) 22:00放送	別世界巻	C2*721.8*M1*4

2 2020年度 図書館自己点検・評価委員会名簿

	氏 名	備 考
規程第5条1号委員	新 井 泰 彦	委員長・図書館長 任期：2020年4月1日～2020年9月30日
	安 武 真 隆	委員長・図書館長 任期：2020年10月1日～2021年3月31日
規程第5条2号委員	木 戸 彩 恵	図書委員会委員（文学部選出）
	佐 藤 雅 代	図書委員会委員（経済学部選出）
	川 口 寿 裕	図書委員会委員（社会安全学部選出） 任期：2020年4月1日～2020年9月30日
	山 川 栄 樹	図書委員会委員（社会安全学部選出） 任期：2020年10月1日～2021年3月31日
	石 垣 泰 輔	図書委員会委員（環境都市工学部選出） 任期：2020年4月1日～2020年5月31日
	岡 絵 理 子	図書委員会委員（環境都市工学部選出） 任期：2020年6月1日～2021年3月31日
規程第5条3号委員	山 崎 秀 樹	学術情報事務局長
規程第5条4号委員	久保田 真 也	学術情報事務局次長（図書館担当）
規程第5条5号委員	濱 生 快 彦	図書館事務室
	北 野 正 人	図書館事務室
	鵜 飼 香 織	図書館事務室
	堀 口 和 弘	図書館事務室

【事務局（図書館事務室）】 畠山 勝代、堀口 和弘

3 図書館自己点検・評価委員会規程

制定 平成6年1月28日

(趣 旨)

第1条 この規程は、関西大学図書館規程第7条第2項の規定に基づき、図書館自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）について必要な事項を定めるものとする。

(任 務)

第2条 委員会は、図書館における教育研究の支援活動及び管理運営の自己点検・評価の取組を行うため、次の事項を行う。

- (1) 自己点検・評価の方針の策定並びに点検項目の設定及び変更
- (2) データの収集、分析及び検討
- (3) 報告書の作成
- (4) その他自己点検・評価及び第三者評価に関する事項

(各機関の協力)

第3条 委員会は、前条第2号に規定するデータ収集のため、それに関わる各機関に対して協力を求めることができる。

(報 告)

第4条 委員会は、自己点検・評価の結果を図書館長に報告し、図書委員会の議を経て公表することができる。

(構 成)

第5条 委員会は、次の者をもって構成する。

- (1) 図書館長
- (2) 図書委員のうちから図書館長が指名する者若干名
- (3) 学術情報事務局長
- (4) 学術情報事務局次長（図書館担当）
- (5) 図書館事務職員から若干名
- 2 図書館長が必要と認めた場合、2名以内に限り、図書委員会の議を経て大学内外の有識者に委員を委嘱することができる。

(委員長等)

第6条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は図書館長をもって充て、副委員長は委員のうちから委員長が指名する。
- 3 委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を代行する。

(委員の任期)

第7条 第5条第1項第2号及び第5号に規定する委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 前項の委員に欠員が生じたときは、補充しなければならない。この場合において、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(運 営)

第8条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は出席委員の過半数の同意をもって決し、可否同数の場合は議長が決する。

- 3 委員会は、必要に応じて、委員以外の者に出席を求め、その意見を聴くことができる。

(事 務)

第9条 委員会の事務は、図書館事務室が行う。

附 則

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この規程（改正）は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

この規程（改正）は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この規程（改正）は、平成13年10月1日から施行する。

附 則

この規程（改正）は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規程（改正）は、平成15年4月1日から施行する。
- 2 この規程（改正）施行後最初に第5条第3号及び第4号の規定により選出された委員の任期は、第7条第1項本文の規定にかかわらず、平成16年3月31日までとする。

附 則

この規程（改正）は、平成18年10月12日から施行し、平成18年8月1日から適用する。

附 則

この規程（改正）は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程（改正）は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程（改正）は、2019年10月1日から施行する。

令和2年度図書館等職員著作権実務講習会に参加して

田中舞衣

1. はじめに

令和2年9月24日(木)～9月25日(金)に、京都大学吉田南総合館南棟にて文化庁著作権課主催の「令和2年度図書館等職員著作権実務講習会」が実施された。

本講習会の目的は、著作権法施行令(昭和45年政令第335号)第1条の3第1項に掲げる図書館その他の施設の職員に対し図書館等の実務に必要な著作権に関する知識を習得させることであった。

本稿では著作権実務講習会の講義内容を中心に報告する。

2. 著作権法概論 (I)

文化庁著作権課の宇山雄大氏より、「著作権制度の沿革」や「著作権の概要」について講義が行われた。

そもそも、著作権法の目的とは第1条に定められており、「著作物並びに実演、レコード、放送及び有線放送に関し著作者の権利及びこれに隣接する権利を定め、これらの文化的所産の公正な利用に留意しつつ、著作者等の権利の保護を図り、もつて文化の発展に寄与すること」である。私は今まで著作権法は著作者(創作者)の権利を保護するための法律ととらえていた。しかし、過度な権利の保護はかえって著作物の利用を滞らせるため、権利を保護すると同時に制限することによって著作物の公正な利用を確保し、文化の発展に寄与していることを学んだ。また、著作者とは、「著作物を創作する人」のことで、通常であれば、実際の創造を行う個人が著作者となり得る。しかし、著作者とは必ずしも著作物を創作した個人のみを指すのではなく著作権法第15条に示される条件をすべて満たす場合には法人、その他の使用者が著作者となる場合があるため、注意が必要である。

3. 著作権法概論 (II)

文化庁著作権課の課長補佐、池野浩幸氏より「著作者の権利」や「著作隣接権」について講義が行われた。

著作物とは、著作権法第2条で「思想又は感情を創作的に表現したものであって文芸、学術、美術又は音楽の範囲に属するもの」と定義されている。そのため、人の思想や感情を伴わない単なるデータ(富士山の高さは3,776メートル等)やアイデアに留まるもの(表現されていないもの)は著作物とは判断されない。

広義の「著作権」は「著作隣接権」と「著作者の権利(著作権)」に分かれる。「著作隣接権」とは著作物などを人々に伝達する者(著作隣接権者)に与えられる権利のことである。著作隣接権者には、実演家・レコード製作者・放送事業者・有線放送事業者がある。「著作隣接権」は無方式主義であるため登録等は不要で、実演等を行った時点で自動的に付与される。「著作者の権利」とは著作権者が自ら著作物を利用することができ、他人に著作物を無断で利用されない権利である。「著作者の権利」についても、無方式主義であるため登録等は不要で、著作物を創造した時点で自動的に付与される。また、「著作者の権利」は、さらに、「著作者人格権」と「著作権(財産権)」に分かれる。「著作者人格権」は著作者が精神的に傷つけられないようにするための権利であり、創作者としての感情を守るためのものであるという性質から譲渡や相続ができない一身専属の権利である。「著作者人格権」には、「公表権(無断で公表されない権利)」、「氏名表示権(名前の表示を求める権利)」、「同一性保持権(無断で改変されない権利)」がある。一方で、「著作権(財産権)」は財産的利益を守るためのもので、譲渡や相続が可能である。著作物が創造された時点では、通常であれば「創作者=著作権者」であるが、上述したように、著作権(人格権)は譲渡や相続が可能であるため、創作者と著

著作権者が異なる場合があります、注意が必要である。

4. 著作権法概論（Ⅲ）

文化庁著作権課の著作権調査官、高藤真人氏より「他人の著作物等を利用する方法」や「著作物等の例外的な無断利用ができる場合」について講義が行われた。

他人の著作物を利用するためには原則として著作権者の許諾を受ける必要がある。しかし、「保護の対象でないもの」や「保護期間が切れているものの場合」、「権利制限規定による例外の場合」などは許諾を得ずに他人の著作物を利用することができる。まず、著作権法の保護の対象となる著作物とは、「日本国民の著作物であること」、「日本で最初に発行された著作物であること」、「条約によって保護の義務を負う外国の著作物であること」のいずれかに該当しているものである。つづいて、保護期間とは「著作権」や「著作隣接権」などに定められている一定の存続期間のことをいう。例えば、「著作者人格権」は一身専属の権利であるため、保護期間は著作者の「生存している期間」である。一方で、「著作権（財産権）」の保護期間は、著作者が著作物を「創作したとき」にはじまり、原則として著作者の「生存している期間」＋「死後70年間」である。なお、保護期間の計算方法を簡単にするため、すべての期間は、死亡・公表・創作した年の「翌年の1月1日」から起算される。さいごに、「権利制限規定による例外」で許諾を得ずに利用できる場合とは、例えば、私的使用のための複製や教育目的の複製、司法・立法・行政のための内部資料としての複製等である。

5. 著作権法各論（Ⅰ）

文化庁著作権課の著作権調査官、高藤真人氏より「図書資料の複製等」について講義がおこなわれた。

上述の通り、著作物の利用の際には原則として著作権者の許諾が必要である。しかし、図書館等の公共的機能に着目し、一定の条件を満たせば著作権者の許諾が不要とされている。図書館等で提供されている複製サービスはその一例である。「主体が図書館等であること」、「営利目的でないこと」、「図書館等が所蔵している資料を複製すること」、これらの条件を遵守したうえで、「利用者の求めに応じて、その調査研究の用に供するためにすでに公表されている著

作物の一部分を一人につき一部提供する場合」、「所蔵資料の保存のために必要がある場合」、「他の図書館等の求めに応じ、絶版その他これに準ずる理由により一般に入手することが困難な所蔵資料（絶版資料等）の複製物を提供する場合」のいずれかに当てはまる場合に、図書館等は著作物の複製サービスなどを利用者に提供することができる。

6. 著作権法各論（Ⅱ）

文化庁著作権課の著作権調査官、高藤真人氏より「視聴覚資料の利用等」について講義が行われた。

非営利・無料の場合の上演や貸与等や障害者のための複製について学んだ。視覚障害者のための複製等については、すでに公表され、著作物の題名などの出所を明示したうえで、著作物を点字に訳して複製することが可能であり、この場合は権利者に許諾を取らず、誰でも複製することができる。また、視覚著作物を音声にするためには、上記の条件に加えて、公衆に提供されていないことなどを遵守することが必要であることを学んだ。

7. おわりに

これまで、「著作権」という言葉は日常で耳にし、目にすることはあったが、著作権についての知識は曖昧で、不確かなものであった。今回の講習会を受講し、著作権とは何かを学び、著作権法がどのような目的で制定されているかなどを知ることができた。特に印象的であったのは、「著作者が必ずしも著作権者ではない」ということである。現在私が担当している学術機関リポジトリの業務において、コンテンツを登録するためには著作権者から複製権と公衆送信権の許諾を受ける必要がある。その際著作権者の確認が欠かせないが、執筆者、出版社、学会など様々な主体が著作権者となる場合がある。そのため、「論文を書いた人（執筆者）が著作権者である」と解するのではなく、「著作者が必ずしも著作権者ではない」ということを日ごろから念頭に置き慎重に業務に取り組みたい。また、自身が勤めている図書館が、利用者に提供している様々なサービスの根拠を学ぶことができ、とても貴重な機会となった。著作権法は、社会状況の変化に対応するために、内容が改正されていくものであるため、今後も継続して著作権法について学んでいきたい。

8. 参考文献

- 文化庁著作権課「著作権法各論（Ⅰ）図書館資料の複製等」
（2020）
- 文化庁著作権課「著作権法各論（Ⅱ）視聴覚資料の利用等」
（2020）
- 文化庁著作権課「著作権法概論（Ⅰ）」（2020）
- 文化庁著作権課「著作権法概論（Ⅱ）」（2020）
- 文化庁著作権課「著作権法概論（Ⅲ）」（2020）
- 文化庁著作権課「著作権テキスト ～初めて学ぶ人のために～ 令和2年度」（2020）
- （たなか まい 図書館事務室）

2020年度図書館活動報告

1 図書委員会

第1回：2020年4月15日(水) [持回り開催]

- 審議事項 (2019年度図書費決算について、2020年度図書費予算について)
- 報告事項 (2020年度冊子体雑誌及び個別電子ジャーナルの選定について、学習用図書の選書協力について、2020年度市民利用の受付結果について、新型コロナウイルスの影響拡大に伴う図書館の対応について、図書館年間展示計画について、図書館におけるSDGsの取組について、koaLABO (パスファインダー)の周知について、2020年度図書委員会開催日程について)

第2回：2020年5月20日(水) [オンライン開催]

- 確認事項 (図書委員会における代理出席の取扱について)
- 報告事項 (2019年度冊子体雑誌及び個別電子ジャーナルの支払実績およびその割合について、2021年度冊子体雑誌および個別電子ジャーナルの予算について、冊子体雑誌、個別電子ジャーナルの選定について、オックスフォード大学出版局の電子書籍トライアルについて、新型コロナウイルスの影響拡大に伴う図書館の対応(特別入館)について)

第3回：2020年6月17日(水) [オンライン開催]

- 審議事項 (電子ジャーナルパッケージ及びデータベースのスクラップ&ビルドによる新規購入希望申請について)
- 報告事項 (冊子体雑誌及び個別電子ジャーナルの投票結果について、研究用図書の購入希望について、新型コロナウイルスの影響拡大に伴う図書館の対応について、図書館におけるSDGsの取組について)

第4回：2020年7月22日(水) [オンライン開催]

- 審議事項 (冊子体雑誌及び個別電子ジャーナルの選定について)
- 報告事項 (CAT2020による図書館書誌データの変更について、高額資料の購入について、KOALAの利用停止について、新型コロナウイルスの影響拡大に伴う図書館の対応について、KU Library thinks SDGs IIの実施について、2020年度自己点検・評価報告書の作成について)

第5回：2020年9月23日(水) [オンライン開催]

- 審議事項 (2021年度図書費の予算申請について)
- 報告事項 (2020年度図書費予算執行状況(4月～8月)について、ProQuest Ebook Central 試読型選

書システムのトライアルについて、高額資料の購入について、新型コロナウイルスの影響拡大に伴う図書館の対応について、図書館ミニ・ガイダンス(秋学期)の実施内容について、【高槻・ミューズ大学・堺】秋学期企画展「これが世界のノンフィクション」について、リザーブブック制度について、KU Library thinks SDGs 2020の実施について、2020年度自己点検・評価報告書の提出について、総合図書館書庫狭隘化対策について)

第6回：2020年10月21日(水) [オンライン開催]

- 審議事項 (電子ジャーナルパッケージ・データベースの2021年購入候補について)
- 報告事項 (学園祭期間中の図書館の開館日程について、「新入生に贈る100冊」関連講演会の実施について、その他)
- 懇談事項 (新館長の所信に基づく暫定方針についての意見聴取協力依頼)

第7回：2020年11月18日(水) [オンライン開催]

- 報告事項 (冊子体雑誌及び個別電子ジャーナルの2021年購入候補について、2021年度関西大学図書館市民利用の募集について)
- 懇談事項 (館長の暫定方針(案)における当面の課題についての意見交換)

第8回：2020年12月16日(水) [オンライン開催]

- 審議事項 (2021年度図書館開館日程(案)について、冊子体雑誌・個別電子ジャーナル(C+D)及び電子ジャーナルパッケージ・データベース(A+B)の2022年における新規購入希望申請受付の見送りについて)
- 報告事項 (文献相互利用(ILL)における校費料金立替処理3月分の運用について、2021年度学部一般入試期間中の図書館の利用について、高額資料の購入について)
- 懇談事項 (館長の暫定方針(案)についての意見交換)

第9回：2021年1月27日(水) [持回り開催]

- 報告事項 (2020年度図書費予算執行状況(4月～12月)について、高額資料の購入について、電子ジャーナルパッケージ・データベースの2021年購入候補について、新型コロナウイルスの影響拡大に伴う図書館の対応について)
- その他 (館長からの経過報告と要請)

第10回：2021年2月17日(水) [オンライン開催]

- ・審議事項（総合図書館への集密書架増設に伴う館内レイアウト変更について）
- ・報告事項（総合図書館リニューアル計画（書庫狭隘化対応を含む）について、冊子体雑誌、個別電子ジャーナルの2021年購入資料タイトルについて、2021年度図書館ガイダンスについて、新型コロナウイルスの影響拡大に伴う図書館の対応について）
- ・その他（館長からの経過報告と要請（セーフティネットの構築））

第11回：2021年3月17日(水) [オンライン開催]

- ・報告事項（「日々是好日 365日、今日を生きよう」（春学期企画展）の実施について、ミューズ大学図書館、堺キャンパス図書館における図書リタイヤ作業について、新型コロナウイルスの影響拡大に伴う図書館の対応について）
- ・その他（館長からの経過報告と要請（セーフティネットの構築））

2 図書館自己点検・評価委員会

第1回：2020年7月22日(水) [オンライン開催]

- ・審議事項（2020年度自己点検・評価報告書の作成について）
- ・報告事項（関西大学自己点検・評価委員会（大学部門委員会）事項について）

第2回：2020年8月5日(水) [持回り開催]

- ・審議事項（2020年度自己点検・評価報告書（修正案）について）

3 図書館会議

図書委員会開催の前週水曜日に図書館長と図書館職員で「図書館会議」を開催し、次回図書委員会事項等を協議している。

4 関西四大学図書館長会議

新型コロナウイルス感染拡大状況に鑑み開催を取止めた。

5 講演会・セミナー・講習会等の開催

(1) オンライン講演会【「新入生に贈る100冊」関連企画】

- ・開催日：2020年11月16日(月)
- ・演題：「敏感すぎる人（HSP）として少数派で生きること」
- ・講演者：十勝むつみのクリニック
長沼 陸雄氏

(2) 館内での研修会

- ・開催日：2020年12月2日(水)
- ・演題：「With/After コロナの大学図書館の在り方」
- ・主催者：紀伊國屋書店

(3) 館内での展示①

- ・開催日：2020年3月25日(水)～7月22日(金)
- ・内容：春学期企画展「知りたい！」が未来をつくる「知りたい！」で世界をひろげる
- ・場所：総合図書館2階開架カウンター前

(4) 館内での展示②

- ・開催日：2020年4月1日(水)～2021年3月22日(金)
- ・内容：企画展「わたしたちは世界を変えられる Sustainable Development Goals」
- ・場所：総合図書館2階「KU Library thinks SDGs 開架ブース」

(5) 館内での展示③

- ・開催日：2020年9月21日(月)～2021年1月30日(土)
- ・内容：SDGs 教員推薦図書の展示
- ・場所：総合図書館2階開架カウンター前
(巡回展示（館外）)

・2020年11月1日(日)～11月10日(火)
紀伊國屋書店 梅田本店

・2020年11月16日(月)～11月25日(水)
紀伊國屋書店 札幌本店

・2020年12月1日(火)～12月10日(水)
紀伊國屋書店 新宿本店

・2020年12月16日(水)～12月25日(金)
紀伊國屋書店 神戸阪急店

・2021年1月17日(日)～1月26日(火)
紀伊國屋書店 福岡本店

・2021年2月1日(月)～2月10日(水)
紀伊國屋書店 広島店

(6) 館内での展示④

- ・開催日：2020年9月21日(月)～2021年1月30日(土)
- ・内容：企画展「向き合う、広がる、新学期： Sustainable Development Goals」
- ・場所：総合図書館2階開架カウンター前

(7) 館内での展示⑤

- ・開催日：2020年9月21日(月)～10月16日(金)
- ・内容：「これが世界のノンフィクション」
- ・場所：堺キャンパス図書館

(8) 館内での展示⑥

- ・開催日：2020年10月1日(木)～2021年3月27日(土)
- ・内容：「SDGs audiovisual selection」
「名作シリーズ傑作選」
- ・場所：総合図書館2階 AV 資料閲覧コーナー

(9) 館内での展示⑦

- ・開催日：2020年10月23日(金)～11月21日(土)
- ・内容：「これが世界のノンフィクション」
- ・場所：高槻キャンパス図書館

(10) 館内での展示⑧

- ・開催日：2020年11月26日(木)～12月23日(水)
- ・内容：「これが世界のノンフィクション」

- ・場 所：ミューズ大学図書館

(11) 各種ガイダンス

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、春学期は入門・活用・入庫・ミニガイダンスとも対面では実施せず、秋学期はミニガイダンスの一部を除き実施した。実施停止期間中は、その代替として、次のとおり対応した。

- 「入門ガイダンス」
 - ・音声動画を作成、配信
 - ・オリエンテーション「図書館ってQ」の内容をリニューアル
- 「活用ガイダンス」
 - ・全提供モジュールについて音声動画を作成、配信

- ・koaLABOに「【教員向け】オンライン版 図書館ガイダンスの授業利用」ガイドを作成

- 「入庫ガイダンス」
 - ・2020年度に限り、「書庫の利用方法」ビデオ視聴により、学部3年次以上の学生には自己申告により入庫資格を認めることとした。
- 図書館ミニ・ガイダンス
 - 需要が高く1対1での対応となるオーダーメイドガイダンスのみ秋学期から実施した。

6 規程・内規・要領の改正

なし

コロナ禍における図書館利用サービスについて

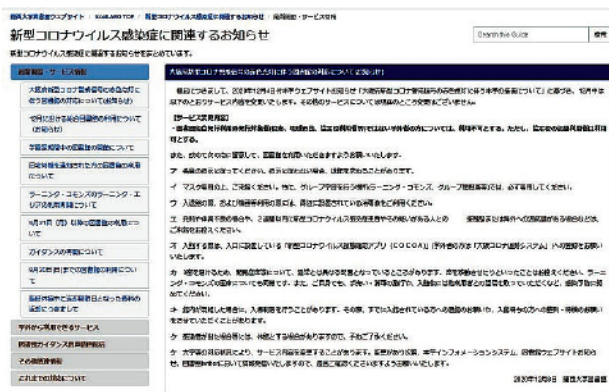
新谷 大二郎

本稿は、2020年3月～2021年3月の当館における新型コロナウイルス感染症対応（以下、「コロナ対応」という。）について、報告するものである。取り上げるトピックは、以下のとおりである。

- 1 2020年3月以降の当館のコロナ対応
- 2 コロナ禍でのサービス検討
- 3 感染予防対策について
- 4 ノウハウの蓄積および今後の課題

それぞれの対応のより詳細な点については、当館ウェブサイトの新型コロナウイルス感染症対応特設ページにまとめたので、関心があればご覧いただきたい。

新型コロナウイルス感染症対応特設ページ URL
<https://kansai-u.libguides.com/c.php?g=927108>



1 2020年3月～2021年3月の当館のコロナ対応

当館では、2020年3月以降にコロナ対応が本格化した。主な対応は以下のとおりである。

- 3月
 - ・グループ学習空間の提供中止（グループ閲覧室は9月21日まで、ラーニング・commonsは9月28日から一部再開）
 - ・ガイダンスの受付中止（9月14日まで）
 - ・学部卒業式・大学院学位記授与式の中止による関係者以外入構禁止措置に伴い、臨時休館
- 4月
 - ・休講措置に伴い、休業期間中と同規模のサービス内容での開館（開館日時の縮小）
 - ・図書館ガイダンスの一部音声動画像、配信

- ・11日より臨時休館（～6月14日まで）
- ・臨時休館体制の中での授業担当教員への授業準備支援開始
- ・13日よりシフト制による在宅勤務体制に移行。事務室、業務委託業者ともに2チームに分かれて、隔週で出勤（5月末まで）
- 5月
 - ・学部生・大学院生の条件付利用を開始（事前申込制、曜日・時間限定、入館上限人数設定）
- 6月
 - ・入構規制措置緩和を受け、学部生・大学院生の条件付利用の条件を緩和（事前申込不要、曜日・時間の拡大）
 - ・15日より臨時休館を解除。学外者の利用も可とし（ミューズ大学図書館は6月24日から）、ほぼ平常に近いサービス内容で再開
- 8月
 - ・休業期間に入り、通常の休業期間中のサービス内容での開館とする。
- 9月
 - ・14日、秋学期から原則対面授業が再開されることになったことを踏まえ、ガイダンスの受付を再開。図書館ミニ・ガイダンスについてはデータベースの使い方を個別に案内するオーダーメイドガイダンスを除き、秋学期は実施しないことを決定
 - ・21日、秋学期開始。総合図書館の平日の開館時間のみ2時間短縮して開館。グループ学習空間については、同21日にグループ閲覧室の提供を再開、28日からはラーニング・commonsの提供を一部再開
- 10月
 - ・特定学部の積極的予防措置により出席停止となった学生の入館を制限
- 1月
 - ・大阪府下緊急事態宣言発令に伴い、グループ閲覧室、ラーニング・commonsを閉室（一部は授業第15週終了後閉室）
 - 2月
 - ・24日、グループ閲覧室、ワーキング・エリアを除いたラーニング・commonsの提供を再開

2 コロナ禍でのサービス検討

当館ではコロナ禍での利用者への支援内容として、主に以下の内容を検討ないし実施した。

- (1) 図書館が有する電子情報資源の案内、ガイダンス等の利用案内の電子化
 - 図書館では電子図書、電子ジャーナル、データベース、各種オンラインパスファインダーなど、利用者が来館せず利用

できる情報資源を従前より備え付けてきたが、コロナ禍の状況において、それらの入手、利用方法が利用者にほとんど浸透していないことが明らかになった。

それを受けて、図書館ではwebパズファインダー作成ツール LibGUIDES（当館での名称は koaLABO）を用いて、上述の新型コロナウイルス感染症対応にかかる情報をまとめた特設ページを作成するとともに、同特設ページに「学外から利用できるサービス」と題して、上記の各種情報資源にはどのようにしてアクセスするかを示したwebページを作成することとした。その甲斐あってかどうか、4月春学期開始当初は頻繁であった電子情報資源へのアクセスにかかる問い合わせが、5月に入ってからは減少し、替わって図書館の開館再開予定に関する問い合わせが増加するという推移があった。

また、上述のような既存のサービスの認知度を高める案内を充実させるとともに、新たな電子的な利用案内のコンテンツ拡充を行った。具体的には、利用ガイダンスの内容の音声動画配信（元となっているパワーポイント資料も提供）、各種利用案内に利用者をナビゲートするポータルページの作成などが挙げられる。ポータルページでは、各データベースごとに演習問題を提供することも行った。これは、音声動画ガイダンスもしくは提供用ガイダンス資料と併せて教員自身で図書館ガイダンスを完結できるような構成となるよう意図したものである。ただ、今のところ、それらのコンテンツについて、図書館がそうした使い方を意図して公開していることを伝達する手段に乏しく、認知度が高い状況にあるとは言えず、対面で用途を伝えることができれば、より有効に活用してもらえそうなのに、と二律背反の悩ましい状況にある。

(2) データベースベンダーなどによる特別支援サービスの導入
 コロナ禍において、各ベンダーから特別支援サービスが提示され、当館においても利用者から情報提供があったものも含めて、各社の支援内容を精査、積極的に導入を行った。

(3) 臨時休館中の特別入館サービス

上述したように、臨時休館当初は来館せず利用できるサービスに関する問い合わせが集中したが、その後、開館再開予定の問い合わせが増加し、対応が求められることになった。特に早くから卒業論文等に着手する学部・研究科の教員・学生からの要望は切実なものであったため、図書館としても電子的な資源だけではまかないきれないサービスの需要に応える方が必要であった。当然、それまでも検討を重ねてはいたが、それがより切迫したものとなってきたということである。ところで、この時期の要望について印象に残っているのは、勉強する「場所」がないから図書館を開けてほしいという趣旨のものがかなり多かったことである。

こうした状況に対応するべく、図書館では条件を設けて入館を許可する特別入館サービスと、図書および論文単位の文献複写物を郵送で送付する郵送サービスの実施について、検討を行った。郵送サービスについては、すでに実施していた機関も複数あり、それら機関における実施状況も探りつつの

検討となった。

結果として、当館では郵送サービスについては種々の事情から実施には至らず、5月中旬より制限された条件下で入館を認める特別入館サービスを実施することになった。当初の主な条件は以下のとおりである。

- 申込書のメール送付による事前申込制
- 週2日開館
- 開館時間中1時間のみ滞在を認める。
- 1時間単位での入館上限人数を40名とする。
- 提供サービスの限定（レファレンス不可など）

特別入館サービス申込様式

No. _____
 年 月 日

特別入館申込書

キャンパスへの立ち入り及び窓口業務についての本学の取組に基づき、密となる状況を避けるなどの感染拡大防止に留意することに関する事項に、以下の任意事項を併記の上、特別入館を申し込みます。(左のボックスに入れてください)

(1) 関西大学に在籍する **学生、教職員、大卒後の方** が申込可。有償研修生等も含みます。単位互換履修生は申し込みできません。

(2) 本申込書を **利用希望日と日付・日祝日除く** の **17:00 まで**、lib-toku@ml.kandai.jp にメールで提出してください。ただし、利用希望日は別のキャンパス図書館の取寄せを希望する場合は、**1週間前まで** で提出してください。さらに、配達時間を要する場合は、調整させていただくことがあります。マイク資料を希望の場合は、事前にご連絡ください。

(3) **総合書庫、高槻キャンパス図書館、ミューズ大塚図書館、東キャンパス図書館** が利用できます。来館時に **図書館からの開館2時間の前までオンラインで展示してください**。

(4) 利用可能日は **毎月1回以内** とします。利用可能なサービスは貸出・複写・返却となります。(なお返却については、総合書庫においては、利用可能日に限り正面入り口前に返却ボックスを設置します。別のキャンパス図書館は、係員にお越しください。)

(5) 同時に入館できる **人数の上限を定** しているため、ご希望に添えない場合は、**入館日時の変更をお願い** することがあります。

(6) 図書の出庫冊数は学生生 10 冊、大学院生 20 冊、貸出期間は学期利用図書 1 か月(貸出延長不可)、研究用図書は学生生は 1 ヶ月(貸出延長不可)、大学院生は 2 ヶ月とします。 **匿名貸出はできません。KOALA 上で貸出ができるように提供された時点で借渡ください**。

(8) 本申込書は利用希望日時を第 3 希望まで記入した上で、提出してください。また、少しでも多くの方にご利用いただくため、連続した日祝日の申し込みは控えてください。

申請者 TEL:	学籍番号: _____ 氏名: _____ e-mail: _____ ※ lib-toku@ml.kandai.jp からの連絡を受けできるように設定ください。		
理由・目的等	<input type="checkbox"/> 卒業論文・学位論文 <input type="checkbox"/> 課題・レポート <input type="checkbox"/> その他 () ※該当する項目に <input checked="" type="checkbox"/> を入れてください。その他の場合、() 内に理由を入力ください。		
利用希望館	<input type="checkbox"/> 総合 <input type="checkbox"/> 高槻 <input type="checkbox"/> ミューズ <input type="checkbox"/> 堺 ※いずれか一つに <input checked="" type="checkbox"/> を入れてください。		
利用希望日時	第 1 希望	月 日 ()	以下のいずれか一つに <input checked="" type="checkbox"/> を入れてください <input type="checkbox"/> 10:00-11:00 <input type="checkbox"/> 11:00-12:00 <input type="checkbox"/> 12:00-13:00 <input type="checkbox"/> 13:00-14:00 <input type="checkbox"/> 14:00-15:00 <input type="checkbox"/> 15:00-16:00
	第 2 希望	月 日 ()	以下のいずれか一つに <input checked="" type="checkbox"/> を入れてください <input type="checkbox"/> 10:00-11:00 <input type="checkbox"/> 11:00-12:00 <input type="checkbox"/> 12:00-13:00 <input type="checkbox"/> 13:00-14:00 <input type="checkbox"/> 14:00-15:00 <input type="checkbox"/> 15:00-16:00
	第 3 希望	月 日 ()	以下のいずれか一つに <input checked="" type="checkbox"/> を入れてください <input type="checkbox"/> 10:00-11:00 <input type="checkbox"/> 11:00-12:00 <input type="checkbox"/> 12:00-13:00 <input type="checkbox"/> 13:00-14:00 <input type="checkbox"/> 14:00-15:00 <input type="checkbox"/> 15:00-16:00
電帳からの取寄せ希望資料	請求記号	書名・著者名・出版者・資料 ID など	
		資料 ID ()	
		資料 ID ()	
備考			

【事務処理欄】

受付	日付	事務室	氏名
確認		総合・高・ミューズ	
通知		総合・高・ミューズ	

館長	次長	事務長
—	—	—

※本申込書に記入された氏名、所属、電話番号等の個人情報は、特別入館申込に関する業務（申込者本人への事務連絡を含む）以外の目的には使用しません。

その後あまり間を置かず緊急事態宣言が解除され、大学の入館禁止措置も解除されたため、特別入館サービスによる開館日数は6日と短いものとなったが、その間の申込にかかる問い合わせのメールのやりとりは1,000件を超え、受付を担当するスタッフは連日遅くまで対応にあたることになるなど、特別入館サービスと実施には至らなかった郵送サービスを並行して提供するには人的資源を筆頭に、あらゆる資源が足りていないといった、その後の対応を検討する際の材料を得る貴重な経験となった。

3 感染予防対策について

当館において実施している感染予防対策については、以下のとおりである。

○ソーシャルディスタンスの確保に関して

(1) 閲覧座席の間引き、座席の使用不可掲示

総合図書館において、通常2,000超の座席を最も少ない時間で240席まで間引き、閲覧座席使用中の間隔の確保に努めた。バックヤードに収まりきらない座席については、机上に「使用禁止」掲示を貼付することで対応した。

間引き後の座席利用については、概ね図書館の意図どおりに利用されているが、やはり利用者による座席の移動、稀には抜取した座席を集めている場所からの座席の持ち出しがあり、都度注意している。

(2) カウンター、グループ学習空間へのテーブルマスクの設置

約200個のテーブルマスクを調達し、カウンターでのスタッフと利用者間、グループ学習空間での利用者間のソーシャルディスタンスを確保するように努めた。

グループ学習空間においては、テーブルマスクをまたいで議論をしたり、隣り合うように席を移動させたりと、むしろ通常よりも距離を近づけることになるような状況も散見され、利用指導に苦慮した。



(3) カウンター、自動貸出機動線へのソーシャルディスタンスシールの貼付

タイルカーペットにも貼付できるソーシャルディスタンスシールを50枚調達し、要所に配置した。しかし、相性があるのか、うまく床面に定着しない館もあり、当該シールをコピー、ラミネート加工の上、養生シールで固定するなどの対応を行うこともあった。これについては、利用者が図書館の意図しない行動を見せることもなく、適切に運用できている。

○換気・消毒に関して

換気については、厚生労働省の3密防止ポスターによると、1時間に2回以上、1回数分程度の二方向の開放による換気が推奨されている。しかし、特に総合図書館では施設全体の空調管理の側面から開放できる窓が限られるため、実質出入口の開放による換気を行うしかなく、すると、気候が温暖な季節はよいが、冬になると出入口に配置されるスタッフの健康被害が想定されることから、1時間に1回、5～10分の換気

を行うことにした。また、窓の開放による換気を行わなくても、施設の空調設備による十分な換気が行われていることを施設管理業者に確認している。そのため、本来は窓の開放による換気は必要ないのだが、念のために実施しているものである。

消毒については、以下を実施している。

(1) 館内各所への消毒液の設置

(2) 毎日の清掃業者による清掃時に、閲覧机、共用部分（トイレ、手すり、電灯スイッチなど）の消毒

(3) 図書館スタッフによる貸出備品の返却時消毒、利用者用パソコンの閉館時消毒、特別閲覧室の使用後消毒

その他、利用者からの要望が多いものとしては、返却図書への消毒があるが、これについては日々の返却図書の量から手作業による処理は難しく、機器の導入により利用者自身で消毒を行わせることも検討したが、4館分の費用を確保することは難しかったため、実施していない。図書の使用前後に手指を消毒することを励行している状況である。

4 ノウハウの蓄積および今後の課題

最後に、コロナ対応にかかる当館におけるノウハウの蓄積に対する姿勢と、それを活かしての今後の課題への対応方針について述べたい。

ノウハウの蓄積に関しては、コロナ対応の当初からこれが一過性のものでなく、収束後も影響を及ぼすものであるという認識があったため、ただ雑多に記録を蓄積するだけでなく、その後それをノウハウとして活用するためにはどのようにすべきかという観点で関連の資料を作成したり、実施してきたことをドキュメント化したりといったことに努めてきた。冒頭のコロナ対応の特設ページの作成も、最たる目的は利用者へ提供する情報を一元化することであったが、そうした考えの下に作成されたものでもある。具体的には、緊急事態宣言発令時などのその時々状況や大学の対応基準と紐づけた図書館各サービスの提供条件の網羅的な相関表の作成や、時系列に沿った体系的な図書館からの発信情報の記録・整理、入館者数の推移などの統計情報や数字上の館内のキャパシティに基づいた閲覧座席数の間引き設定などが挙げられる。このようにしてその当時の判断の結果だけが記録に残るのではなく、どのような過程・方法からその判断に至ったのかが資料上で明らかになるように各種ドキュメントを残しておくことで、今後の対応にも活かされるものと期待している。

そうした蓄積を基に、このコロナ禍の経験を経て、今後当館で対応していくべき課題としては、以下の点が挙げられる。目下、コロナ禍はまだ収束の兆しを見せておらず、そのため、これら課題についても喫緊のものとアフターコロナを見据えてのものという区別が生じるものと認識しているが、いずれにしても取り掛かっていかなければならないものとして挙げている次第である。

(1) 図書館の各種サービスの遠隔利用を可能とすること

特に申込を必要とするサービスなどは、押印・署名を必要とすることや複雑な条件を説明した上で受け付けることなどの障壁があり、未だ対面を前提としているものが多く、これをオンライン等の対面を前提としない方法で受け付けられる運用の検討が急務である。

(2) 感染防止策と、居場所、資料保存場所としての図書館の機能との折り合い

コロナ禍において授業のオンライン化が促進され、オンライン授業と対面授業が共存する状況が生まれたことにより、学内でオンライン授業を受講するための場所として、図書館に新たな需要が生まれている。そのための居場所を求める利用者の状況は、自身ですべてを用意でき、場所だけを必要としている者もいれば、オンライン授業を再生するための機器の貸出から利用方法の説明を求める者まで、千差万別である。図書館では、現状できる範囲のサービスを提供しながらも、今後、この新たな需要にどこまで応えるのかを検討していかなくてはならない。

また、資料保存場所としての機能についても、感染防止策を講ずるにあたって、再考を求められる側面が出てきている。具体的には、感染防止のためには換気が必要とするが、換気により普段は気候に合わせて最適な水準に保たれているはずの温湿度が変動し、カビの発生を助長させたり、ムシの侵入が増加するといったことである。当館でも実際にカビの発生範囲が広がっている状況が見受けられ、より効果の高いと思われる薬剤を導入するなどの対策をすでに講じているが、対処療法でしかないため、抜本的な状況改善には、施設環境の側面からの対応が必要と考えている。

(3) 感染防止策を講じた上での座席数の原状復旧などの施設環境の整備

仮にコロナ禍が収束したとしても、その際の施設環境における対応が座席をそのまま戻すだけといったことに留まれば、リスク管理の姿勢を問われることになりかねない。コロナ禍収束後の施設環境のあるべき状態を見据えて、準備を整えていくべきである。

(4) 留学生などの海外在住者、大学付近と遠方など複数に拠

点をもつ利用者の対応

例えば、郵送サービスを導入している機関でも海外住所への送付は対応していない場合が多く、当館においても郵送サービスを実施したとしても海外はサービス対象外とする想定であったということがある。また、オンライン授業を希望しており、現在の居住地は実家なり遠方であるが、大学付近にも拠点をもっており、そちらの方に貸出図書を置いたままにしているため、取りにいけないといった事例も発生している。これら様々な生活様式に応えるためのサービスのあり方の模索が必要である。

その他にもコロナ禍により顕在化し、コロナ前後では考え方、サービスの提供の方法が変化することになると思われることは枚挙にいとまがない。

当館では、これまで述べてきたとおり、今回の経験で得たノウハウを基にして、これからのあるべき図書館像を検討し、新しく、かつ持続可能性のある図書館サービスを模索していきたい。

臨時休館期間中（2020年4月11日～6月14日）の利用統計

		専任教員		非常勤講師		大学院学生		学部生		その他	
		入館者数	貸出冊数	入館者数	貸出冊数	入館者数	貸出冊数	入館者数	貸出冊数	入館者数	貸出冊数
4月11日～ 5月12日	総合図書館	26	146	2	45	4	68				
	高槻キャンパス図書館	0	0	0	0	0	0				
	ミューズ大学図書館	0	0	0	0	0	0				
	堺キャンパス図書館	1	19	0	0	0	0				
5月13日～ 6月14日	総合図書館	114	188	69	169	272	885	603	1,773	13	45
	高槻キャンパス図書館	2	1	1	8	3	3	3	14	0	0
	ミューズ大学図書館	5	6	2	1	14	5	21	27	1	0
	堺キャンパス図書館	1	8	1	2	0	0	29	40	1	1

注1 4月11日～5月12日は、授業担当教員への授業準備支援のための特別対応期間 貸出冊数にはオンライン貸出更新分も含む。

注2 5月13日～6月14日は、教員・大学院学生・学部生への条件付利用対応期間

(しんたに だいじろう 図書館事務室)

コロナ禍のもとで図書館の事務管理職として何を考えていたか

濱 生 快 彦

1 はじめに

2020年に発生した新型コロナウイルスの感染拡大に対して、各大学の図書館がどのような対策をとったかについてはすでに多くの事例報告があり、加えてコロナ以後の図書館の在り方についても活発な議論が開始されている。またこの間、各大学や図書館のウェブサイトでは活発な情報提供がなされてきたし、さらにTwitterなどの履歴を子細に追えば、内外の大学図書館がコロナウイルスの感染拡大に対してどのように対応してきたかを追うことはできる。関西大学図書館でも情報を発信することの意味は、サービスを周知することだけでなく、対応の履歴をきちんと記録する意味もあることを意識して取り組んできた。

ある時のこと、過去の対応に反省しなければならない点があることに気づき、自身の行動を振り返っていたところ、自分が2020年の5月は緊急事態宣言の中で職員が2チームに分かれ、交代での在宅勤務態勢にあったのを失念していることに気づいた。つまり、「職員の半数が在宅勤務の状況でそんなことに気付けるわけがないじゃないか」ということを忘れてしまっていたのである。

もちろん、単に私が忘れっぽいだけなのかもしれない。しかし、人は忘れてしまうものであり、過去の記憶を意図せず捏造してしまうものでもある。そこで、「コロナ」に対して図書館がどのように対応したかということだけではなく、この間管理職として何を考えていたのかを記録しておくことは、今後当館で同じ立場に立つ職員に参考になることもあるのではないかと考えた。ここでは、コロナ禍のもとで大学図書館の事務を担当する管理職として、何に怯え、何に迷っていたかを記録しておこうと思う。もちろん、以下の内容は論考というほどのものではないし、図書館の事務管理職としては当たり前の内容かもしれない。それでも、いつか同じ役割を担う職員には何か気づきになる点があるのではないと思う。

新型コロナウイルスの感染が問題になりはじめるなかで、最優先に考えたのはもちろん利用者や職員の感染予防や安全確保だが、この点は学園全体の方針を踏まえた対応を現場のスタッフや事務室の職員、上司とも相談して、最終的には図書館長の判断のもとで必要な施策に取り組んできた。

一方で、自身の業務日誌やノート、自身のメールの送受信履歴などを振り返ってみると、私は大きく①安心して勤務できるよう努めること②できるだけ人的リソースを温存させること③学生に対して必要な情報を伝える方法の3点について考えを巡らせていたようである。以下この3点について記憶

をたどってみたい。

2 安心して勤務できるよう努めること

利用者への感染予防についての施策を検討する一方で、図書館を運営する職員に感染者が出ること、特にクラスターが発生することは避けなければならないと考えていた。また、本学の図書館は利用者サービス業務、収集整理業務(図書・雑誌)の大半を業務委託しており、全体では60名以上の委託業者のスタッフも勤務している。所管する事務室には専任職員だけでなく、派遣職員やアルバイト職員も含め40人弱の職員が執務しているものの、業務委託のスタッフなしに図書館を運営することはできない。業務委託のスタッフも含め、感染の予防を各自で徹底するよう注意喚起を行い、本学が2チーム制によるスプリット勤務(1チームのみが出勤し、別のチームは在宅勤務)を行う期間は、大学の方針に合わせて業務委託業者にも2チームの編成を依頼し、別チームのメンバーとの接触が生じないよう対応の徹底を依頼した。スプリット勤務の当初、中にはどうしてもこの日は出勤する必要があるという申し出もあったが、大学の方針に従い在宅での勤務を徹底した。

勤務に関して言えば、小中学校の休校をはじめ、保育所や学童保育が休業もしくは登園自粛を求められるケースや、介護に関して通常とは異なる対応が必要となるケースも生じた。そのため、休暇に関する法人の特別措置の周知は丁寧に行った。高齢の家族と同居する職員のなかには家族へ感染させてはいけないという不安を感じる職員もおり、通勤ラッシュを避けるために時差出勤について相談を受けることもあったし、アルバイト職員の中には妊娠中のために特別休暇の対象となり、予定していた退職日が急に早まることもあった。

こうした個々の事情への対応には個別の相談を丁寧に行わなければいけないと考えていた。しかし、在宅勤務のため対面での相談ができないケースもありえたため、メールだけでなくLINEや携帯電話の番号も周知し、しつこいほど必要があればいつでも連絡するよう声をかけた。

こうした勤務への対応が十分であったのか今でも自信はない。私ができたことは、特別な対応が必要ではないかと感じた職員に声をかけ、また全体に対して相談のしやすい雰囲気づくりを心掛けるだけだったが、それでも、多くの職員が相談のために話しかけてくれたことはありがたかった。また、近くで執務する職員のマスクの着用状況が気になるといったことから、人事部門に相談を要することまで、不安の原因は

様々だったので、誰にどういった相談を受けたのかをしっかりと記録することの重要性に改めて気づかされた。事務管理職が職員の勤務について考えることは当たり前のことであるが、前例のない状況の中で職員が安心して仕事に取り組めるよう努めることについての苦労があったことは記憶しておきたい。

3 できるだけ人的リソースを温存すること

当館のコロナ禍での対応については、本誌に掲載の新谷(2021)に詳述のとおりである。2020年2月27日に小中学校、高等学校への臨時休校要請がなされ、3月2日に本学が多くの学部を設置する吹田市において初の感染者が確認されたころから、図書館でも大学の方針の下で3密を避ける対応を段階的に実施した。この時期から近い将来に休館せざるを得なくなるだろうと予測していたが、ラーニング・コモンズなどのグループ学習スペースの提供停止、パソコンコーナーなど混雑しやすいスペースの混雑解消、換気を効率的に行うための扇風機の設置など、細かな対応を少しずつ積み重ねることで、休館の時期をできるだけ先に延ばしたいと考えていた。

これは、大学にとって図書館が開館していることが当然のことである。感染予防に配慮しつつもできるだけ開館しておくための努力はしなければならないと考えていたためでもあるが、休館したあとで、どのようなサービスが必要とされ、また提供できるのか、もし在宅勤務体制が取られるのなら、それがどの程度業務のパフォーマンスに影響を与えるのか想像がつかなかったことも大きい。

3月中旬の時点で、私は今後想定されるリスク要因をメモにリストアップしていた。それを読み返してみると、4月からの授業はどうなるのか、臨時休館はしないこととした場合に必要対応は何か、学生やスタッフに感染者が出るなどして急きょ休館が必要となった場合の対応、当時の為替は円高傾向であったが、もし急激な円安が生じた場合に電子ジャーナル等の契約にどの程度の影響が生じうるかなど、結果的に何の対処も不要であったことについても当時は心配していたようである。特に、職員や業務委託スタッフに感染者が出れば、提供できるサービスに大きな制限が生じる可能性が高いことが一番の懸念点であった。

当時の業務日誌を振り返ると、その頃は近隣や同規模の他大学の対応を毎日確認していたので、他大学の図書館が、コロナ禍に対応した新しいサービスを始めたというニュースを目にすると、つい当館でも同じことに着手しなければならないのではないかと考えがちであったことが分かる。Maruzen eBook Libraryの電子書籍試読サービスを学生に大きく周知している事例があれば、本学でも実施しなければならないのではないかと。しかし一緒に仕事をしている担当者は揃って冷静で、そのサービスを実施するのであれば当初予定していた別のサービスと並行して実施することは難しいのではないかと、既に提供しているサービスの広報を強化して、

本当に必要なものを見極めてから判断したほうがよいのではないかと、と拙速な判断を避けるようたびたび進言してくれた。次第に私も、非常時に事務管理職者の一時的な思い込みによって業務負担を増大させることは、不測の事態が生じた場合の余力を失うこととなると考えるようになった。

部署内では、複写物や図書の郵送サービスの実施計画を立案するなど、入館利用ができない状態が長引く場合への準備を進めていた。特に郵送貸出については、4月7日に発出された緊急事態宣言以降、実施の可否について館内で議論を重ねたが、利用者からは人数を厳しく制限した形での来館利用(当館では特別入館と呼称)を求める声も多かった。当時の状況では、郵送貸出と特別入館を同時に実施することは主にマンパワーの点で不可能だということが分かり、資料郵送サービスの実施は、慎重に判断することとなった。

当館では、比較的早い時期に来館利用(特別入館と呼称)を再開した。これは利用資格の制限と入館時間の事前予約を掛け合わせるなど、厳しい条件をつけることで初めて実現できた施策であるが、構想していたいくつかのサービスを諦めたことで可能となった面もある。

この時点では濃厚接触者の定義なども現在より厳しく、職員やスタッフに感染者が出て、動ける人員が半分になってもサービスを継続できるかといったことも想像していた。もちろん、利用者の求めに応じてさらに多様なサービスを展開すべきであったという考え方もあるだろう。しかし、今となれば大げさに感じられると思うものの、このときはできるだけマンパワーを節約し、不測の事態に備えながら最も必要なサービスに力を入れたいと考えていた。

4 学生に対して必要な情報を伝える方法

臨時休館から特別入館、サービスを制限しての開館へと至る過程で、特に学部生の利用者に必要な情報を伝えるにはどうしたらよいのかについて、考えさせられることが多かった。

自宅からVPNや学認を通じて図書館が契約するデータベースを利用する方法や、特別開館時の入館には事前にメールによる予約が必要であることなど、重要な情報は学内共通のポータルサービス、当館のウェブサイト、Twitterを使って繰り返し発信したが、メールや電話では似たような問い合わせが度々寄せられていた。

必要な情報がなかなか伝わっていないと思われたので、新たにLINEやFacebookのアカウントを設けたほうがよいのか、という考えが頭をよぎったこともあった。一方で、SNSの種類を増やせば自動的に若者世代に情報が伝わるというのはおそらく幻想だろうという思いもあった。そこで学生のなかで、「この情報は重要だ、役に立つ」と考える誰かに届けることを優先しようと考え、大学の中でフォロワー数の多い部門にTwitterのリツイートを依頼したり、Twitterを学生の連絡ツールとして使っている教員に図書館のアカウントのフォローをお願いしたりした。また、通常のツイートは図書

館ウェブサイトに掲出したお知らせへと誘導することを念頭に
にした定型的なもの(〇〇のお知らせを図書館ウェブサイト
に掲出しました)であったが、重要だと考えたものや、たび
たび問い合わせを受ける内容については、これまでの運用に
こだわらず、できるだけ親しみやすい表現でツイートするよ
う心掛けた。

コロナ禍のような緊急時のもとで、「再開したサービスが十
分に伝わっていない」「利用できるサービスを利用できないと
思い込んでいる」という場面に遭遇するたびに、何が学生に
対して必要な情報を素早く、また幅広く伝える最適な方法な
のかについて、考えを巡らせていたのだが、当時の本学のポ
ータルサイトのお知らせはあまり見られていないと感じるこ
とも多く、結局のところ Twitter を使った情報の伝播力に期
待するしかなかった。Twitter を使った広報に全く手ごたえ
がなかったわけではないものの、これが最強の手段だという
確信も得られなかった。

その後、本学のポータルサイトは改修され、使い勝手も向
上したが、緊急の連絡が数多く発信される状況を想定すれば、
今後も、学内の他部門や学外の図書館の取り組みも参照しつ
つ、その時点で最良の方法を試行錯誤するほかはないのであ
ろう。ただ、コロナ禍の初期において、必要な情報を伝える
ことの難しさを痛感していたことは記録しておきたい。つま
り、あの時に感じた焦燥感は、実は平時においてもしっかり
考えるべきことだろうとも思えるからである。

5 最後に

本号の編集を担当する職員から最初に相談を受けたのは、
事務長の立場から当館のコロナ禍での対応を総括するような
文章を書いてもらいたいという依頼であった。しかし、具体
的な対応はより実務に近い職員の方が詳しく、またその職員
が振り返ることが重要だと思われたし、具体的に図書館がと

った対応を俯瞰的に分析する資格が私にあるとも思えなかつ
た。むしろ、手もとでつけている業務日誌やメールの履歴な
どを振り返り、コロナの足音におびえながら、悩んだり「こ
ういうときは臆病なくらいがちょうどいい」と聞き直ったり
しながら過ごしていたときに考えていたことが、将来同じ立
場になる職員にとって何かの参考になるのではないかと考え
た。

上述したこと以外にも、国際的な物流が滞り海外からの洋
雑誌が届かないということも、これまで毎年改善を重ねてき
たガイダンスを対面で行えなくなったということも気になつ
た。遠隔授業が開始され、そのもとでどのようなサービスが
求められているのかを関係する職員や教員に尋ねたりもした。

しかし、振り返ってみればそうした個別の図書館サービ
スのことよりも、図書館で働く人に自分ができそうな支援はな
にか、図書館にやってくる人にどうやって必要な情報を伝え
るかということが気になっていたようである。しなければなら
なかったことが十分にできたとは決して思わないし、冷静
な判断が出来ていたとも思えないが、人がいなければ組織は
運営できないし、人に必要な情報が伝わらなければ運営する
意味がないということを考えていたのかもしれない。

現時点で、コロナ禍はまだ収束していないもののワクチン
の接種が開始されるなど、明るい話題もある。考えたくもな
いが、もし将来に同じような非常事態が生じたときに、その
時の職員にとって少しでも参考になることがあれば幸いであ
る。

参考文献

新谷大二郎「コロナ禍における図書館利用サービスについて」
関西大学図書館フォーラム 26, 2021

(はまお やすひこ 図書館事務室)

図書館出版物案内

1 冊子目録等

- 細江文庫目録……450円 ※
わが国英語学界の重鎮、故細江逸記の旧蔵書目録。
- 大阪関係資料目録……650円
昭和35年1月1日現在所蔵の大阪府、市関係の図書・地図・近世文書・堂島文書・芝居番付・明治中期広告の総合目録。
- 生田文庫・穎原文庫目録……非売品 ※
在野の万葉集研究家故生田耕一の旧蔵書の一部と、故穎原退蔵旧蔵書の目録。
- 吉田文庫目録……1,300円 ※
元トルコ駐在特命全権大使であった故吉田伊三郎の旧蔵書目録。
- 岩崎美隆文庫・五弓雪窓文庫目録……1,500円 ※
江戸時代末期の国学者岩崎美隆の旧蔵書目録と、幕末の漢学者五弓雪窓の旧蔵書目録。
- 増田渉文庫目録……6,000円 ※
わが国魯迅研究の第一人者であった元文学部教授故増田渉の旧蔵書目録。魯迅の全著作の初版本他。
- 矢口文庫目録……2,700円 ※
本学の元学長で、イギリス経済史学界の重鎮であった故矢口孝次郎の旧蔵書目録。
- 極東国際軍事裁判資料目録……非売品 ※
極東国際軍事裁判における検察側及び弁護側提出の書証と関係資料の目録。
- 近世文書目録 ※
その一……1,350円、その二……2,000円
大阪周辺の庄屋文書を核に、ほぼ全国各地の近世文書を加えたコレクション。

- 大阪文芸資料目録……3,500円 ※
明治以降の、大阪にゆかりのある作家・画家・芸能人などの作品や大阪を題材とした作品などの本学所蔵コレクションの目録。
- 内藤文庫漢籍古刊古鈔目録……2,500円 ※
内藤湖南・伯健父子旧蔵書の一部善本類の目録。
- 内藤文庫リスト No.1～No.5…非売品（ただし、No1は品切）※
- 芝居番付目録……8,000円 ※
大阪を中心とする宝暦から昭和に至る歌舞伎、浄瑠璃等の芝居番付約6,500点の目録。
- 撰津国嶋上郡高浜村西田家文書目録……非売品
- 河内国丹北郡六反村谷川家文書目録……非売品
- 撰津国住吉郡中喜連村佐々木家文書目録……非売品
- 和泉国大鳥郡豊田村小谷家文書目録……非売品
- 和泉国大鳥郡岩室村中林家文書目録……非売品

2 CD-ROM版

- 内藤文庫目録 KUL-bijou……非売品

3 図書館出版図書

- おおさか文藝書画展 図録……2,000円
平成6年9月、図書館創設80周年記念・文学部創設70周年記念として開催した「おおさか文藝書画展—近世から近代へ—」の図録

注 ※印は関西大学図書館ウェブサイトの特典コレクションにて目録を公開している。
(<https://opac.lib.kansai-u.ac.jp/>)

『関西大学図書館フォーラム』投稿要項

制定 平成 8 年 3 月 31 日

改正 2019 年 2 月 13 日

概要を次のように定める。

(1) 原稿執筆者の範囲

原則として、依頼記事・寄稿記事いずれの場合も、本学の教育職員並びに本学図書館所属の職員を執筆者とする。

(2) 原稿の内容

次のいずれかで、執筆者自身の未発表原稿とする。

- ア 研究論文・研究ノート
- イ 図書館に関する調査・意見
- ウ 本学所蔵資料の紹介
- エ 図書館職員のレポート
- オ その他図書館に関する記事

(3) 掲載

予定の紙幅を超える寄稿があったときは、掲載する号を図書館長が決定する。

(4) 謝礼

依頼記事の執筆者（図書館職員は除く）には、若干の謝礼を贈呈する。ただし、抜刷は提供しない。

(5) 投稿先

関西大学図書館事務室（TEL 06-6368-1157）
電子メール（lib-ent@ml.kandai.jp）

(6) 執筆要領

- ア 本誌 1 ページにつき 2,070 字相当とする。
- イ 原稿は横書き、電子メールまたは図書館が再生可能な電子媒体での提出を原則とし、手書き原稿も可とする。
- ウ 電子メールまたは図書館が再生可能な電子媒体で提出する場合は、プレーンテキスト（txt）形式もしくはワープロ形式を原則とする。
- エ 本文中に図・表または写真を掲載する場合は、その相当分の字数を割愛する。
- オ 原稿は次の順に記載する。
 - ① 標題、② 執筆者名、③ 本文、④ 注記、⑤ 引用文献、⑥ 参考文献、⑦ 執筆者名の読みがな・職名
- カ 原稿の表記は、次に従うものとする。

① 漢字は原則として常用漢字を用い、新かなづかいによる。書誌学的な理由などから、特に旧字体を使用する必要がある場合は、原稿用紙の右欄外にその旨を記す。また、欧文原稿を除き句読点は「。」「、」を用いる。

② 数字は、引用文および漢語の一部として漢数字が習慣的となっている場合を除き、原則としてアラビア数字を用いる。

③ 引用文献、参考文献の記載方法は、次のとおりとする。

a. 雑誌論文の場合

筆者名“論文標題”『雑誌名』巻（号）、年月、ページ

b. 図書の中の一部引用の場合

著者名“論文標題”『書名』（図書の著編者名）出版地、出版者、出版年、ページ

c. 図書の場合

著者名『書名』出版地、出版者、出版年

d. 欧文の場合は、著者名を転置形として、雑誌名または書名には『 』を付さずにアンダーラインで示す（印刷では、イタリック体活字になる）。

[例] Downs, Robert B. “How to start a library school.” *ALA Bulletin* 52(6), 1995. 6, pp. 32-48.

e. インターネット上の文献

著者名“文献標題” [参照年月日] (URL)

[例] 永沼博道 “21 世紀の大学図書館に向けて—伝統と現代化の相克” [参照 2003. 1. 20]

(URL http://web.lib.kansai-u.ac.jp/library/about/lib_pub/forum/2002_vol7/2002_01.pdf)

キ 図・表は、図 1、図 2、表 1、表 2、fig. 1 のように記す。

図または表を電算等で出力したものをそのまま使用するときは、鮮明なものを用いる。写真は出来るかぎりモノクロームを用いる。図、表、写真には、その裏に執筆者名、標題、図 1、図 2、表 1、表 2 のように番号を鉛筆書きのこと。

ク 校正は、初校を執筆者に依頼し、再校以降は図書館が行うことを原則にするが、必要のある場合は、再校以降についても執筆者の協力を得るものとする。

(7) 掲載された著作物の著作権

掲載された著作物の著作者は、当該著作物に関する複製及び公衆送信を関西大学図書館に対して許諾したものとみなす。関西大学図書館が複製及び公衆送信を第三者に委託した場合も同様とする。

以上

関西大学所蔵

『田豆の毛衣』抄

関西大学図書館 手紙を読む会

一 はじめに

今回翻刻する『田豆の毛衣』は、中村幸彦文庫の中に納められた資料で、中村幸彦文庫は、本学図書館が有するコレクションの中でも国内外から非常に高い評価を受けているコレクションである。

中村幸彦（一九一〇―一九九八）は日本近世文学の研究で知られ、一九七三年十月から一九七九年四月まで本学図書館長を務めた。本学図書館は平成一三（二〇〇一）年に中村先生の蔵書を譲渡され、「中村幸彦文庫」を創立した。なお、それ以前に、国文学研究資料館には中村先生の数多くの蔵書がマイクロフィルム化されて納められている。また中村先生の地元淡路島の洲本市立図書館や、母校である旧制洲本中学校（現・兵庫県立洲本高等学校）にも、先生の蔵書が寄贈されている。

「田豆」とは「鶴」のことであり、「田豆の毛衣」とは、鶴の羽毛を衣に例えた表現である。昔から鶴は長寿であることから慶賀を意味し、「田豆の毛衣」は、子进行情深さから愛情を込めて着せた産着、白い着物などの意味として、さまざまな歌に使われてきた。

著者である村田春門（一七六五―一八三六）は、伊勢白子生まれの国学者で本居宣長の門人である。号の一つを「田鶴舎」といった。

翻刻資料は七冊から成っており、それぞれ「春」「夏」「秋」「冬」「恋」「雑」「文章」の外題がついている。また、第一冊の巻頭には「春門翁家集」と

ある。七冊の他に、多治比郁夫氏（一九三二―二〇一六）より中村先生に宛てた書簡一通と、中村先生が書店で求めた際の書店販売箋一枚および書店の納品書一枚を付す。書店の納品書の裏面には、中村先生の手で「此書各冊初め数葉は村田春門の自筆也 昭和三十九年六月見之」とある。

多治比郁夫氏は、山口図書館の郷土資料部員から一九五七年六月に関西大学図書館に入り、その後大阪府立図書館にて勤務した。勤務の傍ら、日本近世文学研究やさまざまな翻刻を成している。

多治比氏のご遺族の了承を得て、氏の中村先生宛書簡を以下に掲載する。「永々と拝借いたしました」「田頭能毛古呂裳」七冊、幸便に托しご返送申し上げます。歌二、二八四首、文四五篇を収め、しかも春門自らが編集したものと考えられますので、よくぞ伝存していたものと、驚いたりよるこんだりして拝見いたしました。まことに有難うございました。春門のこと、せつかくの機会ですから少しづつ調べているうち、何や彼と興味が出て来ました。こ、二、三日大雷雨にて少々涼しくなっておりますが、また猛烈な暑さになるものと思われれます。くれぐれもご自愛下さいませよう。

七月廿五日

多治比郁夫

中村先生

なお、今回は時間と紙面の関係で、春門の自筆と思われる部分（春第一―六丁、夏第一―三丁、秋第一―四丁、冬第一―六丁、恋第一・三丁、雑第一―二丁、文章第一―七丁、合計三十丁）のみ翻刻した。しかし、春門の自筆であるかどうかの判定は非常に難しく、この部分以外についても春門筆の可能性は十分にあると思われるため、後考を俟ちたい。

最後に、これまで関西大学図書館手紙を読む会では、関西大学図書館が所蔵する村田春門、村田嘉言、萩原廣道関連の資料を翻刻してきたが、平成三〇（二〇一八）年八月に助言者である森川彰先生が世を去られ、その後は我々だけで読み進めてきた。

助言者のない我々にとっては、今回の翻刻は甚だ心許なく、これでよい

のだろうかと常に不安を感じながらの作業であった。しかし、幸運なことに肥田皓三氏に本原稿を確認いただくことができ安堵していたところ、令和三（二〇二一）年二月二十二日に肥田先生が逝去されたとの報に接した。改めて先生の温かいご指導に感謝申し上げたい。先生のご冥福をお祈りする。

○関西大学図書館手紙を読む会のメンバーは、以下の通りである。

池尻孝子、鶴飼香織、田中純子、中川敏子、長谷章子、瓢野由美子、福寫真奈、八尾奈緒美（五〇音順）

二 書誌

『田豆の毛衣』七巻 「村田」春門「著」 「書写者不明」 写本

資料ID：210232242～210232307 請求記号：L24*23.95*1～7

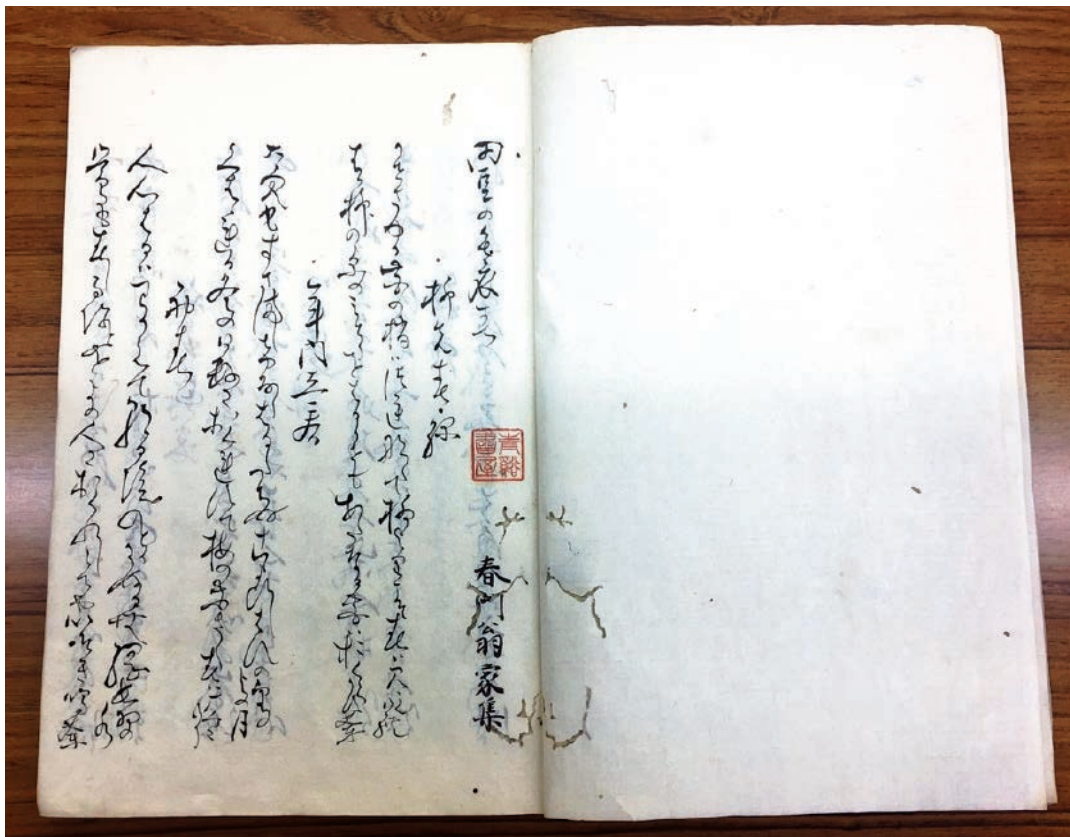
大きさ：266×19.2cm 大本七冊

印記：青谿書屋（大島雅太郎）

三 凡例

翻刻については、次の要領に従った。

- 漢字は、原則として常用漢字に改めた。
- 仮名は、原則として片仮名及び平仮名を用い、変体仮名は平仮名に改めた。
- 踊り字はそのままにした。
- 破損、虫害、判読不能は□で示した。推測できる場合は□の中に字を入れた。
- 難読字は（ ）でかなを付した。
- 丁移りは「」で示し、上に丁数と表（オ）、裏（ウ）と明記した。
- 歌は一字下げとした。



• 「剣」「蘭」「南」と表記された助詞は、それぞれ「けん」「らん」「なん」とした。

第一冊 春

田豆の毛衣春

春門翁家集

柳先春緑

かせさゆる 花の梢ハ つれなくて 柳よりこそ 春ハ見えけれ

青柳の 糸のミとりを はるかせも あたなる花ハ おくらかすらん

年内立春

大空も すさまじけなく はるたちぬ こよひしはすの 望のよの月

くは、れる 冬の日数に おくれすて 梅の花さく 春ハ来にけり

初春

人心 はるハわかえて 朝日陰 のとかにぬるむ 綱長(つなが)ゐの水

鶯も 春しることを よの人に おくれしとてや いそき鳴らん

うへしこそ

春たちけらし 今朝よりハ 雪ともいはす 霞棚引

冬かけて 咲しうめとも おもほえず 年あらたなる 花のかそする

初春雨

今朝よりハ ほのにかすみて しら雪を 雨に吹なす 嶺の春かせ

冬こもる 萱ねの虫に ふる雨や 春の心を しらせそむらん

若菜

はつかなる 雪間のわかな つとにして 山里人そ おとろかしける

きえやらぬ 沢の水も 一くさの 若なにましへ けふそつミける

疑冬

朝日さす きしの山ふき 露ちりて はる風ぬるむ 里の中川

ともからも

いはぬ色なる 山ふきの 花のさかりを 人そとひくる 1ウ

苗代

堰わけし 水の蛙子の あさみとり こなたかなたに もゆるなはしろ

いくはくの 秋のたのみか こもるらん た、一町の 里のなはしろ

寄花懐旧

花のかハ た、それなから いたつらに としをかさぬる 庭の春風

花も木も 今ハおいけり かそへこし 春いく春の わすれかたミも

翠柳誰処

朝霞 みとりむらこに ミゆめるハ たかすむ里の 門の青柳

たか家と しらすともよし 手をりてむ 柳かつらく 春のすさみに

関花

其名のミ 今ものこりて す、か路の 関山桜 人をとめけり

ことならハ かせをもとめよ さくら花 今さかりなる 春のせきもり

花の、ちみとりふかし

おもかけハ ちらぬ桜の 深ミとり 心もおかす かせのふくらむ

根にかへる 花の跡をも したひ来て ふるき瑞枝と 山かせそふく

杜若

夕日陰 な、めにかゝる 柴はしの 下むらこなる かきつはたかな

杜若 花さく沢を 行水の 春あさからぬ 色そにほへる

樹陰夏道

是にのミ 春そのこれる さくら木も このくれしけき 山吹の花

若はさす 春の木末の なひきにも 夏をもよほす 風そしらる、

暮春興

ほと、きす 松のわか芽も たちのひて ほとなき夏の けしきはミけり

山つとの わらひも今ハ はるたけて 松かけつ、し 折ましへつ、

紅梅のうつろひかたなるを

佐保姫の かすみの袖も 今めきし うめの色かも うつる春の日

あやかりて 齋(いさ)の花も にほふらし こき紅の うめの下かけ

紅梅を

2ウ

おほかたハ しろきをめつる ものなから こをはいかにと 人のいふらむ

3才

紅の うめの下ゆく 水鳥の 青はもにほふ はるかせそふく

ふるさとに董のさきたるを

つむ人も なきふるさとの 坪すみれ あはれ色こく 咲にける哉

すみれ草 今ハふりにし 宮人の 袖のゆかりの 色そめてたき

柳に鶯のなくを

うくひすの うめにならへる あをやきに 笠にぬふてふ 糸やよるらん

鶯の 来なく柳の かよひ路を 吹まとはせる 春の夕かせ

さくらの枝にひさこつけたるうた

山もりも た、一枝ハ ゆるすらん 賤のすさひの 花のしら波

花の色の にほひてあそふ はるの日も かたふきにけり 天の吉葛（よきつら）

3ウ

元日草つくし

草の名に かけし初日の 光より はるの色をも つくしつるかな

さほ姫の 心つくしの はる霞 にほひそめけり はつ草の花

春漸暖

霜とくる 軒のしづくも あたゝかに 朝日かけろふ 空そのとけき

北窓を ひらきそむれハ うめかゝの 先朝いをそ おとろかしける

待花

ことさらに おもほゆる哉 花をまつ 心ハふりし 心なからに

おもかけの 雪ハかすみて さくら花 待につれなく さゆる山かせ

水辺花

4才

夕かけて 舟さしゆけハ 大井川 空にも花の 波そかすめる

わか宿の 一本さくら 咲そめて にほひなかるゝ 庭のやり水

春風

やはらきし 音吹かへて をりくハ 雪をもさそふ 松の春かせ

花鳥の 色ねのとけく なり行も 春ふくかせの 心なるらむ

春江眺望

うめの花 かこめにちりて なかれ江の 南のきし□ さわくかりかね

浅みとり なひきあひけり 江わたしに かすむ向の きしの青柳

買梅花

市人の たつきはかりハ ゆるすらん なく鶯の 宿のうめかえ

4ウ

乞よれハ わかものならぬ 春かせの あたひをつのる 軒のうめかゝ

籠中鶯

このうちに 絶すさへつる 鶯に 世ハ春なりと 誰かつげけん

ほともなき 籠にこめられて 鶯ハ おのか声から 身をうらむらん

池水春月

月のミハ さすかに見えて よもハ皆 かすみはてたる 広沢の池

水鳥の 床の玉もゝ はるのよハ 光しつけき 月のわの池

折蕨

もえいつる 谷のさわらひ をりくハ 来てもとへかし 春の山里

かさわけて 荊のもとの 初わらひ をる手にはらふ 露そぬるめる

5才

春曙

竹ふかき ねくらいつらん 鶯の 花にやとらぬ あけほのゝこゑ

山のはの 月ハ霞に をさまりて 松のひまさへ しらむあけほの

小草の花をつむ

草の花 つミをかしけり 春の野の こてふの夢の すかり所を

秋萩の わかめをさへに むらさきの すみれの花に つみましへつゝ、

弥生のはしめ山路をゆく

春霞 ふかき山路に たのめたる 人ありけなる 鳥の声哉

さわらひを 手ことにをりて さくら花 さかぬをかこつ 春の山越

春光遍

5ウ

梅桜 はなハかつさく 花ならぬ 木のめもかをる 春風そふく
つくはねの 雲もそかをる すみた川 堤のさくら 咲つゝく頃

柴おへる人花のかけにたゝすめり

おのかとる 斧にもれたる さくら花 春ハさすかに めつる山人
身におはぬ かこそハ袖に うつるらめ 花の木かけの はるの山人

弥生の五日の日雨ふりけるにおまへの池のさく

らさかりなるを見給ふ御かたはらに

侍りて人々とゝもよみて奉る

海山の けしきも池に うきしまの 雨しつかなる 花の色かな

雨かすむ 空のけしきも きはやかに 花にならへる 庭のときは木

6オ

めさましき わかかへるての 色なれや 雨にぬふれる 花の夕くれ

花光水に漂

溪川を 春そなかるゝ 山吹も さくらも松も 色をましへて

池へのの 花のにしきの さゝらかた 波のあやをハ 風そおりける

東風解氷

はるかせや 氷とくらん さゝ波の 松かねあらふ 滋賀の辛崎

初春待花

鶯の 春つけそむる あしたより またるゝものハ うくひすの声

野雲雀

いく度か のへのひはりハ 大空に のほりもはてす をちかへるらむ

6ウ

こゑくゝに うたて鳴哉 またれぬハ 栄なきものを 山ほとゝきす

首夏惜春

咲のこる 花をそかこつ つれもなき 春の日数を かそへつくして
こらえむと わかほとひくき 鶯は 峰にとまらぬ 春や尋ぬる

しめの外に 春をへたてゝ かきつはた ゆかりの色に にほふはかなさ

夏草

ちらさしと 露のしら玉 巻こめて 蓮のわかはや 池にたつらむ

1オ

〔草〕もふかく 生にける哉 かせたにも かよふひまなき 庭の夏草

う月に鶯のなくを

卯の花の かきねの雪を ほたしにて 山へもいらて 鶯の啼

河辺夏月

ゆく水に あらそひかちて かはかみの 山のはしらむ 夏のよの月

夕鵜河

ゆふ月の 光をさまる 河波に うかひのかゝり せり出□にけり

山陰ハ はやくくれぬと よしの川 うかひ友よふ 声そとよめる

夏動物

山とよミ なく蟬よりも 耳もとの 蚊のほそこゑそ いふせかりける

1ウ

待夕立

ゆふたちを 松のあらしの 吹おちて けふさへよそに なる神の音

すゝしさハ さすかに□へて こゝまでハ まつにかゝらぬ 夕立の雲

炎熱

末葉たに なひかさりけり なよ竹も その名はかりの 水無月の空

日さかりハ 水さへわきて 飛鳥の 影もうつらぬ けふのいふせさ

涼風動簾

月をまつ 軒のいやすを うこかして いやくゝすゝしき 風そふきくる

すゝしさハ 簾に見えて あつき日に うみし心も うこく夕かせ

第二冊 夏

田豆の毛衣夏

郭公数声

郭公 今ハこゑせぬ さとハあらし よるひるわかす 鳴て過らん

樹間夏月

2才

霜ならぬ 光さやけく 松の葉の うはしらみたる 夏のよの月
夕立の 露もすゝしく 木の間より 月さしいつる かさゝきの声

池上蓮

いけ水ハ 見えずしけれはる はちす葉も 月やとれとて 露むすふらん
花の色も 朝日にはえて かをりけり 露の玉まく 池のはちすは

水無月つこもりの日

あすたゝむ 秋ともいはす つれなくて 夏にあまれる あつさなりけり
夕かせは さすかに涼し けふのミカ 秋も夏見の かはといへとも

瀬辺螢多

ほたるとふ せたのわたりと おもふ間に 星のはやしに 夏ハ来にけり

2ウ

いかゝさき 舟こきゆけハ 芦のはに すかるほたるそ 玉とちりける

松下流水

せきいれて 秋をそめつる 松かせの あつさをあらふ 山川の水
夏の日に わきかへりても 松陰の いはねをつたふ ミつそすゝしき

名処夏

時の間に ならひたちたる 小つくはの 峯うつりする 夕立の雲
花紅葉 下てる影も 夏木立 いとも小倉の やまのやまさと

雨後夏月

夏によハ さへきる雲の 峰こえて 雨なこりなく しらむ月かな
村さめの はれ行露の 玉櫛笥 あくるかはやく 夏のよの月

3才

第三冊 秋

多豆の毛衣秋

草花非一

七草ハ さらにいはず 花かすに あらぬうけらも つミくはへつゝ
草の名の そのしなわくる 白露の 心おきてそ あやしかりける

暁帰雁

名残あれや よも暁の 陰かすむ 山のはたとる 春のかりかね

径薄

草むすひ する人もなし うちなひく を花かもとの 鹿のかよひち
道ありと たのめぬ人を はたすゝき 風はたさむく まねく庵の外

秋草

1才

花さへも けさハさきけり よひくゝに 虫のやとりの 庭のあきくさ
暮そむる 沢辺の草の 下根より 月も葉のほる 秋の夕露

三五夜中新月色二千里外故人心

といふ詩の句をひともしつゝ、歌の本末のはしめ
に置いて月のうたよみてたてまつれと仰

られければ

狭筵の 露おきゐつゝ、 なかむれハ 丸になりけり 望月の影
琴の緒の なかきよあかす めつるまに せむかたもなく 月そふけ行

山はれて こよひはことに 月をよみ 律にしらふる 松かせの声

千浦まで 心をやりて 待をれハ ほからかにこそ 月ハ出ける

1ウ

しむものハ 色とおもふを 月かけも 心にふかく 着にけるかな
けつもをし けたぬもわひし こほるまで しむかたもとの 月の下露
色ふかく 言はの花を さかせつゝ、 こゝろくゝに めつる月かな

みのむし

しめやかに 声そきこゆる 秋のよハ 雨にまされる 露のミの虫
露もらぬ 松のしけみに すかりても 猶ミのむしハ 秋をわふらむ

山家秋来

虫こそハ かつ鳴そむれ 秋はまた たつとはかりの おくの山さと

鹿はまた こゑせぬほとも 山さとに 秋のいりたつ 道芝の露

萩初絵

2才

秋かせハ また吹あへぬ 朝露も 色になりゆく 芽子の初花

秋萩の 花さきそめて さをしかの 妻こふ心 ときめかすらん

文月十日はかり猶あつかりけれハ

あつさこそ さらにそひけれ 草の秋の 心うこかす かせもふかねは

ひこほしの わたりて後も いかなれは あつさなかる、 天の川水

林葉初紅

はた寒き 野中にたてる なら林 うす色なから そめはしめけり

雲と見し 花のはやしの はつもみち しくれひまなき ころとなりけり

霧中求路

さしてよる 湊ほりえの 火の気さへ をくらききりに まよふうき舟

2ウ

しほ舟の からろの音ハ 高輪の 湊にまよふ 秋のうきゝり

水郷秋望

朝日山 かけたに見えぬ うきゝりの はれま待らん うちの川長

つくりゑと 見えわたりけり 紅葉の いろとりそふる 天のはしたて

初雁

よろこひの 声をほにあけて わたり来ぬ 五百よの秋の 天つかりかね

秋ことに わたるものから めつらしく きゝなされけり 雁のはつこゑ

秋田

雨風の 時もたかへぬ 秋の田の 瑞穂さかゆる 国のゆたけさ

朝夕の 露のめくみの 色にいて よにもしらる、 秋の千まち田

3才

秋朝風

萩のはを 今朝ふく秋の はつかせや 越路のかりを おとろかすらむ

秋夕雲

真木の立 山のはちかく 霧はれて 夕ゐる雲そ 雨をもよほす

秋夜雨

月見むと おもひしものを よもすから 雨さわかしき 竹の下まと

秋野虫

虫の名も きゝなしからに うへなりと おもひしらる、 あきの野へかな

秋待月

まちわたる 心いられに ほのめくは 月に先たつ 夕つゝのかけ

3ウ

秋惜月

をしむ間に 月はいるへく なりにけり 浪たちさけぬ 沖つ海原

秋顕恋

世にふかく 隠の小野も うらかれて 草の下ねぞ あらはれにける

秋恨恋

今ハよの 秋に扇の うみミれハ しめし人香そ 猶のこりける

秋山鹿

しめやかに 鹿の鳴ねそ きこゆなる 山松かせや ふきたゆむらん

秋暁霜

芦かちる 汀の鷺も 暁の 露しもふかき 秋やわふらむ

4才

秋古寺

礎の 苔のいろさへ 秋さひて もみちちりしく ミねのふるてら

秋田家

晩稲をも 手ことにとりて 秋もいまハ 門の笹木に かけてほすらむ

秋水郷

大井川 入江の松も 老にけり あはれ幾よの あきの夕かせ

秋旅行

きぬたうつ 音にめさめて 秋もや、 夜寒おほゆる 旅衣かな

秋神祇

玉串に 初ほのぬき穂 とりかけて 里の子つとふ 辻やしろかな

4ウ

第四冊 冬

田豆の毛衣冬

逐日氷厚

けふくと 冬の日数に そふものハ あつくなり行 こほりなりけり
よる波ハ こほりのうへに 氷ゐて ほそりも行か 瀧つ山川

雪中梅

雪のうちに けふ咲そむる 梅こそハ かをりのとけき 春の下はへ
ミとしある するしの雪も のとかなる 春おもほゆる 梅の初花

脩竹冬青

大かたハ 色なき冬も 呉竹ハ 松にゆつらぬ ミとりなりけり
よの中の もてふ竹ハ 霜雪の なか／＼ふかき 緑をそそふ

1オ

山路氷

柴人も 冬こもりして 紅葉も 氷しまゝの 山陰のミチ

岩ねふミ 朝こえくれハ 音絶て とゝこほりけり 苔の下水

霽雪

大空の ミとりより先 あらはれて 朝日のどけき 松のしら雪
空はるゝ あらしにつれて さらに又 よそにふり行 杜の白ゆき

水鳥多

木々なへて ちりての後も 鳶陰に むれるるかもそ 青はなりける
をしかもの うちむれうかふ 波のあやを 君かミけしに たれかおりけん

閑庭雪

ふりつもる 雪にうゑたる 庭萑 来る人せたみ 軒になれけり
きえすして ふゆ更にけり われハ友 まつとしもなき 庭のしら雪

1ウ

山路寒月

こほりふむ 山路ハ水の 音絶て 月はかりこそ 空になかるれ
けしきある 鳥のから声 すさましく 月さえわたる さよの中山

井水

もひとりの 伴の宮つこ 朝ことに くだきて結ふ さゐのましミつ
かとのみの 井筒にかけし ひさ／＼さへ うこくへからす つららぬにけり

衾

老ぬれは あつきふすまに まつはりて 霜よのむしの わひつゝそなく
霜ふかく よハ更ぬらし 埋火に よりてふすまの したさやくなり

2オ

行路雪

白妙の 田豆の毛衣 きたりけり 雪おしふれる 野路のたひ人
ふくかせを さむしとたにも おもほえず ちりかふ雪の 花の下ミチ

月前千鳥

在明の 月のふけひの うら千鳥 鳴てとほよる あかつきの空
あはち鳶 かよひもたえす 幾むらか 月によこきる 浦千とり哉

椎柴

冬をへて ミをおく山に 冬こもる 影たのもしき 軒のしひ柴
大かたハ 吹にしたかふ ならはしを いかにとすさふ かせの椎柴

2ウ

椎柴の しけミにさけふ このはさる あなさわかしの 嶺の嵐や

霰交落葉

霰うつ あらしの庭ハ ときは木も あへす乱るゝ 音のはけしさ
散はてし 木末ハかせの 音たえて 落はさわかし ふるあられ哉

霜夜聞鐘

埋火も 霜になり行 さよ中に ひゝくやいつこ やま寺のかね
山寺に おこなふ法の かねさえて おくしもふかき あかつきの声

木枯

山かせの うちふくなへに こからしの その名しらるゝ 杜のした道
ねくら鳥 空にミたれて 真よ中に いと、ゆるきの 杜の木からし

蘆花

た、よひし 秋のミなどの くれなゐも 白々かへる あしの花かな

花紅葉 うへ夢なれや あしかちる なにハほり江の 冬の夕風

冬旅

東路を たとるくも 旅衣 はるちかくこそ いまハなりけれ
たき捨し 松の跡さへ つらゝゐて あくるはこねの 杉の下道

垣根寒草

ゆひこめし 里の垣ねの かれを花 かせふくことに ひまそゝひ行
かれたちて おくしもさやく 茅垣の 下根に春や まちわたるらん

わらはの落はかく処

3ウ

おちつもる 木々のあらしの なこりこそ 明日のあさけの 烟なるらむ
里の子か あらしにさわく 霰をも 杜の落はに ましへてそかく

冬の池を見る

あさましく 朽にける哉 玉はやす 露の行への 池のはちすは
原の池 こほりはて、ハ 嵐ふく くゐりに迷ふ 水鳥のこゑ

爐火

埋火の ほのけかすミて あたゝかに きゝなされけり 山水の声
うつみ火の 炭かきくつし かたらふに あかす更行 こし方の春

網代

あしる人 さむさをわふる 衣手の 田上川に しらむかゝり火

4オ

あしる見に 河かせしのき 都人 ひをのよるくゝ とめつゝそくる

柳に雪のかゝりたるを

いつもくゝ いつもと柳 むつの花 ちることしらて かゝれとそおもふ

春かせの おもかけ見えて 乱れけり 柳の絮と かゝるしら雪

冬衣

わひなから としへたりけり 雪しもの 冬ハふるきの 皮衣きて
ならひたる 雪見車の 下すたれ あらそひ出す きぬの色哉

冬祝

白雪の つむともつきし 大國の おのつからなる 言のは草ハ
まもります 神の恩頼 ふかき色ハ 言はの 花にてそしる

4ウ

冬暁月

窓をもる 月の光も しらみけり すひつの炭も 下くつれつゝ
とをあまり ふたゝひミつる 有明の 光の間にや としハ行らん

寒雁

かりかねの 霜のおほひ羽 こほるらん 門田にさわく 声さゆる也
声高く 鳴てそわたる 天つかり こほるか田に 落まよふらん

仮字を四ツつゝ、あかちて人々に冬のうた

よませ給ひけるに羅怒梨流といふ

四もしをたまはりてよめる

のこりなく 今ハちりぬる。むら紅葉 其色ながら こほる山川

5オ

しら玉を つらぬるつらゝ、 つらつらに つらなりちらぬ 野等のたかむら

簾外雪

常磐木の 梢の雪の あさ風に をすのまとほし 花そちりくる
すゝたれし 軒はの雪の よしすたれ よしあるさまに ふりにける哉

氷上雪

日頃へし 氷やいつら よのほとに 汀もわかす つもるしらゆき
夜のほとに ふるしら雪も あつ水 鳥の跡さへ ミえぬ池水

雪はれて有明の月清くすみわたりたるを

有明の 月の光を さなからに 野山の雪の うはふよは哉

さへきりて 目にたつ色も なかりけり 月と雪との 曙の空

5ウ

鷹狩

たちいつる 大鷹かひの すり衣 けふをはれとそ ふるまへりける
はし鷹の 心たかくも 見ゆる哉 君かミゆきの 野への曙

冬祝

御園生の 霜の松かえ いくそたひ 冬のさかえを かそへらるらん
をとめ等か 蚕かひもよしと たなすゑの 御調をいそく 冬の里々

待春

いははる、 わか身の老の 嬉しさに 翁さひして 春をしそまつ
吾門に たてる榎木も はるをまつ 心しられて 烟そめけり

歳暮市

6オ

つもれるハ 月日のミかハ 山人の はこふ都の 市柴の雪
春をしも 市所せくたつ 民ハ ひとつ心に 待いそくらむ

除夜

あすやまたん けふやをしまん 待をしむ 心まとひに ふくるよは哉
をしミつる 年もこよひと なりはて、 春まつよりハ 外なかりけり

ミにつもる 老の数をも ことならハ 鬼におふせて やらひてし哉

ゆたかなる 春もしられて をかみする 小蓑もかをる 里のうめか、

冬草

根にこもり 春まつ草ハ 老らくの 霜をいたく たくひなりけり
くつはむし 今ハ声せず なりはて、 かれふすまゝの のへの冬くさ

6ウ

第五冊 恋

田豆の毛衣恋

寄水恋

よの人ハ ミなくちくく に さわかれて 山田の蛙 音をのミそなく
かすかきし かひハ何そも よとみなき 袖の涙の 水くきの跡

寄湖恋

あふみてふ 名をたのみつ、 からさきや からきくいして 岸をへにけり
ひら山や かせふきあれて おもふ事 おほつの沖に まよふうら舟

寄雪恋

しらゆきの とけむ期をたに またすして 我身おもひに きえかへりつ、
こし路なる 白山の雪 年をへて など、けさらん 人のこゝろは

1オ

寄嶋恋

よひくく に 舟さしめくる 罵つとり うしや千つなの 乱てそおもふ
わか中ハ おき波とほく はなれ嶋 朝夕たゝに こひ渡りつ、

寄鳥恋

声のミハ まれにきこえて あふことハ いたくほと、き すきの下陰
暁の とりのおもはん ことさへも うたてまるねの 夜をかさねつ、

寄笛恋

もらさしと くちかためても おもひあまり 声をそたつる 夜はの横ふえ
夜をかさね あひミぬときは ふえ竹の こまほしくのミ 音そなけれける

寄鶯恋

1ウ

寄樹恋

すまのあまの やくとやくなる もしほ木の つくることなき わか思ひ哉
かせふけハ あをうなはらに た、よひて うかふ浮木も よるてふものを

思恋

うきてた、 おもひま昔の ねもミすて ふかきこひちに まよふ頃哉
心から おもひ思ひに あちきなく、うき人やりと なにかこつらん

寄嶺恋

たとりても こえすハやまし こひの山 わかいるかたの ミねたかくとも

我がたに なひきやかかると 雲のゐか 生駒の峯を うちなかめつ、
寄舟恋

3才

第六冊 雑

田豆の毛衣雑

嶋鳥

さ、波の 立もさわかす をしかもハ むれて翅を かはしまの水
いせしまや とこよの波の しき波に あらふかあさる 田つの毛衣

名所関

よ、へても 其名はかりハ 山水の なかれてとまる 河口の関
すまのうらの 花と月とに ミをすて、 関守にたに なりにてし哉

駿河の国久能山の宮の御修理たくミ
の棟梁をおくる

宮柱 ふとしきたて、 いさを、も たて、かへらん 時をしそまつ

1才

寄水祝

た、へたる 門の磐井ハ 天つ水 いやをちにこそ わきかへりけれ
をさめしる 民の草はも うるほひて 水ゆたかなる 天の龍川

神祇

ものさわに わか君かよそ さかゆなる 大国主の 御国いわひて
宮つこか さしはやしたる 榊葉の 風かくはしき 神の広前

樵夫

船木こり 木をこるまゝに おの、おとの ほとくけふも 暮んとそする
をりくハ 真木こりすて、 天つたふ 雲にうそふく 嶺の杣人

谷間にはし見えたり

1ウ

橋見ゆる 此谷川の 水上や 斧のえくたす 所なるらむ

月日のミ とはにそわたる 苔むして 跡たに見えぬ 谷の岩橋

亀のうた

よの長の ものとし人に ゆるされて 君かみきりに すめる池水
岩渕の 心のとけき 人こそハ 亀のよはひも かそへつくさめ

鯉

青渕の いつ藻の下に ふすこひの うきてあきとふ 晩そしつけき
今くくと 鯉ハひそみて 瀧つせを ミなきりのほる 時をまつらむ

雑草

ふみわけて くる人もなし ふる郷の 草のは山に 関ハすゑねと
行かれて わけこそまよへ かたくくに むすひ捨たる のちの草村

名所渡

故郷の 夢路はるけき 枕香の こかのわたりに まよふ旅人
夜をこめて 誰いそくらん うきりの ふかき淀路の 舟わたりして

名所湊

大船の 鹿子のミなどの 朝ひらき やまと嶋より 追かせそふく
ミなとかせ おひてふくらし 草陰の 阿濃の舟人 声さわく也

流水浮雲根

松かせに 声をあはせて 雲おこる 岩根とよもす 山川の水
千曳なす 岩秀にあたる 瀧波の 雨雲みたれ はる、日そなき

2ウ

第七冊 文章

田豆の毛衣文章

浜辺にいて、貝ひろふ

かねてもよほし仰られし事なれば朝またきより
人々はまへにいて、波よきほとなる処に軟障(せじょう)など
引めくらしおまし物してわれ見てもひさしくなり

ぬと松陰にうそふきあふめりほともなく殿もいて
おはしましてやかて渚ちかく立いてさせ給ひて
海松にまじる貝つものひろひあつめさせ給ふかい
ろく／＼なるを見給ひゑらせて歌ひとつ／＼奉れと仰られ
けれハまつさかしけなるわらはのさしいて、

波の間に

うかみよりけり 春かせの 吹ちらしたる うめの花貝
かをらぬ春かせこそあやしかりけれとおのれひとりおもひ
ほこりたるわかうと

うらのあまの すみふるしたる 板屋貝 いたくかすめる 春のうみつら
なつかしからぬ板

屋かなふはの関ならましかハといひくたして又ひとり

延虫あまの子か かつき出たる あはひにそ けふの御あへの かひ
にはありけれ

とて奉りたるはものほしけなりや

あさましと人々もときあふめれとさすかによき御
さかななりけりなと興し玉ふほとにゑひのすさみ
のさへづりもあまたあるめれとさのみハえまねひ

あへ更ならむ

胡蝶辞

ころもはるさめふることにあらたまりゆく野山のけし
きうら／＼と霞たなひきも、ちとり声をつくすハ
いと心ゆく縣のさまなりけり風あた、かにたもと吹
かへすにつれてひら／＼とうちひらめくものあり空に
しられぬ雪そふりけるとうち誦して夕日のまは
ゆさにさしかさしたる扇のつまにと、まりたるを

1オ

ミレハ
ちる花と ミシハかすめる そらめにて 春にたはる、こてふなりけり
いかなる夢をかむすふらむと

2オ

かひなたゆさを念してもてゆくこゝの杜陰を
たちはなれたる所ハおしなへて菊の花さき
ミちたれハ黄々青などしきたらむやうにて
目もあさむはかりなるに心うつりてゆるきや也
けん立さる行へもしらぬにまた

菊の花の 色にまきれて たつ蝶の 羽かせもかをる 暮そしつけき
いてや白きも黄なるも大きなるも

ちいさきもすへておしからぬはなきをはねひろく
黒き筋いかめしきをとりよそひて髭なかくおひ
たるこそ品おくれて見えしか

2ウ

暁帰雁辞

夕くれ曙春秋とおもひくらへて老のねさめの
つれ／＼なくさむるもあちきなきわ邪なりけり
さすかに何となく心中こゝちしたる枕かみのともし火
の陰かすかになりゆくかものむつかしけれハひまし
らひ窓おしあげたるにかりかねの声なき
かはしかへり行を花を見すて、とうらみなから
春かすミかすミていふも秋霧のちきりたかへぬ
ためしこそあはれなとおもふほとやう／＼東の空
むらさきたちて高ねのよこ雲も
今ハとて

わかれも行か 秋のよを 月にちきりて 天つかりかね

3オ

とよひいてたるをあはれとはかりきく人しなけれ
ハひとつふたつとかきかそへてかすハたらてそと

うちなめたる春の曙のあはれなるに友よひ
かはしわたりこし秋の夕をおもひくらふるにいつれを
いつれとも我心からさためかねて

春秋の 夕暁 きりかすむ ふかきあはれに まよふかりかね
かへしも

をりふしにつけてそゝろにあはれすゝむもよのか□
かなりけらし

杜若をかける辞

呉竹のをりかけ垣しめくらしたる家ありほとなき

3ウ

心地すれハ何の心もなくうかゝひ見るに人けミえねと
さすかに心にくゝすみなしたり桜も今は散はてて
柳の眉おかしげにほころひたるかたはらの水かゝ
ミきよく杜若さかりなりそもく源氏君の垣間見
し給ひし夕くれの小柴垣にハさまかはりたれと

なつかしき 若むらさきの 杜若 かくるゝくまも 見えぬ園生(その)かな

水辺款冬辞

うたてあるかはすの声かな山吹の咲をこりたる峯陰

4オ

さらす朝霧夕かせにうちミたれていはぬ色にも
はちすいとかしましく啼たちて何かあるなきを水にすむ
蛙花になく鶯と一つかひの歌よミにえらはれけんむかしのさため
こそあやしけれなといふも又口さかなしされとおもふほといはては
はらふくるゝこゝちして

きく耳もゝたぬなるやし くちなしと いひさわかるゝ 山ふきの花
とへとこたえぬとかこちしもうへなり

けりといひつゝ一えたをりたるにはらくとちりうきて
水のひかりきよくなかれゆく岩間にいとしのひやかに

□なしと さのミいふらむ おほかたも 花ものいはぬ ならひならずや
と本末かすかにきゝなざるゝにおとろきて見わたせは例の

4ウ

歌よミのうかひ出てもゝあはれしりかほつくりたるも
にくしかな

河辺夏月といふことをかける詞

水のほとりに出ですゝみてむとおもふにし河八道とほ
くてくるしかも川は人々むれ来てうるさし中川こそ

よからめとかねてしる人かりしかく此夕暮にといひやり
つるにやり水のめいほくとよろこひながら俄にて人食おろ

そかならむハいかゝはせむよしやといひおこせければ
夕月とゝもに立出て行つるに木のしたやミをくらきかたに
かゝり火けうとからすミなし水の流れ石のたゝすまひ

5オ

なと心しらすミえておかしき所のさまなり

河ちかき 軒はの萩は 秋かせの ふくはかりなる 夏のよの月
ひるのほと空

すみわたりて涼しともすゝしな興にいるほと山のは紫た
ちたる夏のよのさかこそにくけれ

扇風といふことを

はしめをはりひとしきものはまれなるならはしにて
よにかしこき人達も時をうしなひては跡をくらす
たくひおほかりけり男女のなからひもこそありけるまし
ておほかたのものハなと扇うちならしておもふにこのもの也
う月の末つかたより時めかされて水無月ハミさかり

5ウ

に世のおほえおほかたならすあけてもくれても手をも
はなたすはた／＼とうちひらめかしこの君ならてハと
誰も／＼おもふめれと萩の声やう／＼耳たちて文月も
末になるまゝ、にいつれかさきにと露にきはひておきそ
められてはて／＼ハ骨のミこち／＼しくなりもて行ものゝすみ
うちすてられて心は花にと老さらほひてうちわふめり
うへしも常なきは世の中なりけりしかハあれと歌絵
など物にかきな夕顔朧月夜などその名をとめたと
きいやしき人々の手にもならされぬや／＼しきをりにハ先とりいて
うらるゝなとこそ本末たかはぬ榮なりけれとあちきなき

6才

ことゝもおもひつゝ、けて
秋たちて 露よりほかに おかるゝも ならすあふきの かせはわすれし
かくそゝろなる口すさひも
心のあらましかハ
わすれしの その一言も たのまれす 秋にあふきハ よのさかそかし
とやいはまし

初秋風

あつし／＼といふことをわれも人もたゝ此ころのまくらことにて
あかしくらしつるにいつしか星まつる夜も過て秋まつ心は
はきにあけて天河をもわたらまほしうなむはしちかく
ゐて狩衣のひもしとけなくむねのあたりはうそくなる
さましてはた／＼と扇うちならし水飯などもよほすほと

6ウ

心つくしの秋ハ来にけりとなかめいたす夕月の光さやかなる
に垣ねの萩も軒はのをきもやう／＼うちそよきてふきくる
ものゝいとうれしく

夕月の 露ほのめかし むしのねも もよほしかほの 秋のはつかせ

寢覚聞鹿

暁はかりうきものはなしとハ恋する人のいふ事とのミおもふハあら
さりけり埋火かきおこしはいかちなるはいとむくなるにふす
まの下に老か、まりてこしかた行末おもひつらねていと心ほそく
なんやう／＼春待つて鶯にいさめられて八月と花との
かけふミならしつゝ、心をやりほとゝきすにおとろかさされてハ

7才

人つてならぬ声にはこりなとさすかに寢さめもおしからす
ハあらすなんさる中にも山ふかきすまるのかひよと紅葉
ふミわけ妻こひわひて谷間にかへる暁の声いはむかた
なし

秋のよハ ねさめかちなる ことわりの 声あはれなる 峯のさをしか
今ハかくまで老はてゝ松も昔のとかこつ枕に
さと声はるか身にしミてふしかへりて

7ウ

あかしかね あかつき佐る ともなれや まくらにちかき さをしかの声

編集後記

この度、図書館フォーラム第26号を予定通り刊行することができ、編集担当一同、大変嬉しく思います。昨年度に引き続き、新型コロナウイルスが猛威を振るう中、ご協力いただきました関係者の皆様には改めて御礼申し上げます。

今号は、新型コロナウイルス特集号として、2020年度に取り組んだコロナ禍での対応を、事務長とサービス担当の立場から振り返り記録することとしました。口絵にも当時の写真を掲載しておりますので、限られたスペースではありますが、より具体的に実際の様子を伝えることができたのではないかと思料します。

2020年度は利用者サービスのみならず、電子資料の収集にも力を入れ、これまでの業務を大きく見直すことになりました。これまでも電子資料は存在し利用されていましたが、やはり「図書館」と言うと図書館員・利用者共に、紙の資料を想像する方が多い印象でした。また、紙の資料に比べて電子資料の方が高額になることが多いため、予算との兼ね合いもあります。社会全体が対面ではなく、オンライン主体で物事を進めていく中で「実体」ありきと思われていた図書館サービスをどう展開するか、その問いの答えを追い求めた年となりました。それは2021年度の現在も引き続いております。変化する社会の中で、利用者と資料を繋げ続ける姿勢は変えずに、いち早く状況に対応していけるよう今後も邁進していく所存です。

最後まで図書館フォーラム第26号をご覧ください、誠にありがとうございました。引き続き、関西大学図書館をよろしく願い申し上げます。

(石塚)

図書館フォーラム編集担当
石塚 夏実・畠山 勝代・堀口 和弘

関西大学 図書館フォーラム 第26号 (2021)

2021年6月30日発行

編集・発行 関西大学図書館
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
TEL 06-6368-1157
<https://opac.lib.kansai-u.ac.jp/>

制作 (株)遊文舎
〒532-0012 大阪市淀川区木川東4-17-31
TEL 06-6304-9325



Kansai University
Library Forum